

社団法人日本外洋帆走協会

平成2年5月15日発行(毎月1回15日発行)

昭和52年7月21日第三種郵便物認可

定価300円

Offshore¹⁹⁹⁰5

No.181

Nippon
NIPPON CHALLENGE



第5回 相模湾JBC オープンヨットレース

'90STCシリーズ第6戦

開催日: 6月16日(土) - 17日(日) 参加者募集中

- 6月16日(土): ディンギー(3クラス) / 6月17日(日): クルーザー(6クラス)
- 参加対象: アマチュアヨット愛好者すべてを対象とする
- 参加費用: STC登録艇=1艇につき8,000円(8人まで) / 8人以上の場合は1人追加ごとに1,000円
一般艇=1人2,000円。但し女性及び18歳未満は1,000円
- 賞: 参加者全員に参加賞。各クラス優勝~6位にトロフィー他 / 他に特別賞を多数用意しています
- 主催: 相模湾JBCオープンヨットレース実行委員会
- 主管: (社)日本外洋航海協会 関東支部 / 神奈川県ヨット連盟 / STC(セイルポート・トレーニングクラブ)
- 後援: 神奈川県 / 逗子市 / 三浦市 / 葉山町
- 協賛: セゾングループ(株) 西洋環境開発
- 協力: シーボニア / 葉山マリーナ / 逗子マリーナ
- お申込方法: STC登録艇はSTC事務局(Tel 571-9747)へ
一般艇は下記事務局または、シーボニア / 葉山マリーナ / 逗子マリーナの各ハーバー事務所まで
- お問い合わせ: 相模湾JBCオープンヨットレース事務局 03(593)8511(朝日海洋内)
- 締め切り: 平成2年6月8日(金) 必着



その時、海は景色をやめた。



“NIPPON”進水!



力強いスピン・ランを見せる "NIPPON"



NIPPON CHALLENGE
AMERICA'S CUP 1991

進水式は、盛大に行われた…。



進水の儀。徐幕が行われると同時に鏡開き、そしてクルーは「NIPPON」へ乗り込み、セーリング海面へと向う



NORCをエントリークラブとして次回アメリカズ・カップに挑戦する、ニッポンチャレンジアメリカ杯1991委員会の「NIPPON」の進水式が、去る4月22日、愛知県蒲郡市のニッポンチャレンジ蒲郡ベースキャンプで行われた。次の第28回より使用される新しいアメリカズ・カップ・クラスのボート（IACC）としては、フランス、イタリアに続く、世界で3隻目の進水である。

進水式に先だって行われた記者会見では、まず山崎達光NCAC委員長が「悔いのない挑戦を果たしたい」と挨拶した。続いて林賢之輔チーフ・デザイナーが艇の概容について記者団の質問に答え、「新しいアメリカズ・カッパーは従来使われてきた12メートル・クラスに比べて細長く軽いことが特徴です。艇の完成度を自己採点するならば、80点くらい。これをチューニングしていくことで、90ないし95点に持っていきたい。もちろん2号艇では100点を目指す。」と述べた。

記者会見にはNCACに新加入し



テンドーに更航される「NIPPON」のまわりを埋めつくした観覧艇



ジブセルを上げ、クロースホールドのセーリングに移つ



記者会見はセールロフトを利用して行なわれた。手前より南波チームキャプテン、林チーフ、江口 NCAC 副会長、山崎 NCAC 会長、大儀見 NORC 副会長、C・ディクソン



ベースキャンプ全景



たクリス・ディクソンも出席し、「新艇はパワフルでエキサイティング。加速がよく、風速10ノット以下では風よりも速く走る。」と艇の印象を語っていた。

続いて進水式が行われた。初めて水に降ろすという通常の意味での進水式ではないが、三笠宮寛仁親王妃信子殿下のテープカットによる除幕を賜り、そのユニークな姿が初めて公開された。同時にボンツーンでは鏡開きが行われ、続いて整列していたクルーが“NIPPON”に乗り込み、テンダーに曳航されてセーリング海面へと向った。風は5～6

m/s、あいにくの曇天だったが、数多くのプレスボート、観覧艇が見守る中、クローズホールドからスピニングまで、約1時間のお披露目セーリングが行われた。伴走する12メーターを全く問題としないスピード、進水直後とは思えない無難なクルーワークと、見る者に期待を抱かせる“NIPPON”の船出であった。

ごあいさつ

日本がアメリカズカップに初めてチャレンジする。それはヨットマンのみならず、日本の若者たちへ夢を与えることを含め、理屈で割り切れない世界に立ち向かう純粋な精神や姿勢を国際的にアピールするものです。

およそ140年の歴史と伝統を誇るアメリカズカップに初挑戦を賭ける日本。しかし、私たちはただ参加することを意義とするものではありません。戦うならば、アメリカズカップの発端となった1851年のワイト島一周レースでのエピソードー“アメリカ”号が他艇を引き離す様を見たヴィクトリア女王が、2番手の艇の位置を信号手に尋ねた際に「陛下、2番はございません (There is no second)」と告げられたと同じく、レースには2番はなく、勝つことだけが評価を得るということをチャレンジ・スローガンとし、私たちはアメリカズカップに立ち向います。

望みうる最高の“贅”と“粹”を賭けて戦うとされるアメリカズカップ。挑戦に向けての準備も、私たちの新艇“NIPPON”が今日、ここに進水することで、現実的なステージを迎えることになりました。クルーたちもますます強力になってきています。今後も今までにも増して、“気・力”ともに強化を図っていきます。

この「ニッポンチャレンジ」を私どもはたくさんの人々の“和”をもって進めて行きたいと考えています。私どもの熱い心意気を深くご理解いただき、広く国民的な盛り上がりとして成功させることができますよう、ご支援をお願い申し上げます。

ニッポンチャレンシアメリカ杯1991委員会
会長 山崎 達光



た“NIPPON”



NIPPON CHALLENGE
AMERICA'S CUP 1991

これが、“NIPPON”だ。



巨大なスピーンと細長い船体の対比が特徴的な“NIPPON”。マストはカーボン製で、ジャンパーステーなどにも様々な工夫がこらされているようだ



バウ付近のシアーラインの形状も独特だ



広いビームで効果的なハイクアウトを狙っている



水面下のハルは非常にスリムだ

“NIPPON”はわが国のハイテク技術を駆使して建造された。まず、世界一の精度を誇る水槽試験が700回も繰り返され、船型が決められていった。船体とセールのレーティング上のバランスは、VPPと呼ばれる速度予測プログラムでシミュレートすることにより決定され、未定であったどの開催地でも同様なパフォーマンスが得られると結論づけられた。

キールに関しても水槽試験の他、スーパーコンピュータを使った流れの解析が行われているが、現段階では未定の部分もあり、一切公表はされなかった。

さらに炭素繊維を使った建造技術は日本のお家芸であり、今後はこれをマストにどう生かすかがポイントと林チーフ・デザイナーは延べていた。

次回のアメリカズ・カップよりレースのコースが変更され、リーチ

ング・ジャイブが多くなり、ランニング・レグでのフィニッシュとなる。マスト・トップから展開される巨大なスピネーカーのハンドリングが見どころとなるはずで、そのためのセール作り、デッキ艀装が研究されている。また、セール形状を分析するため、4台のカメラでセールの撮影しコンピュータでデータを分析する、セールビジョンと呼ばれるシステムが搭載されている。



16名のクルーが操る“NIPPON”。誰がどのような役割なのか、想像してみると楽しい。アフターガイ用としてマストから横に突き出たポールに注目

メインセイルはフルバテンでローチが大きく、通常のパーマネントバックステーは無い↓



マストトップ（水面上35mノ）から展開されるスピンは実に465㎡もある。ハリヤードを上げるだけでも大変だ➡



NIPPON CHALLENGE
AMERICAS CUP 1991

NCAC, 今後の取り組み。

進水式に遅れること4日、4月26日ニューヨーク時間午前9時、ニューヨーク州裁判所の判決が下り、ペンディングとなっていた前回のアメリカズ・カップの勝者が、サンディエゴ・ヨットクラブに決定した。これにより次期開催地はアメリカとなった。

「進水式も終わりチーム全員の士気が高まりつつある現在、待ち望んでいた裁定が出てすっきりとした。あとはカップ獲得に向けて邁進するだけだ。」と山崎NCAC会長はコメントしている。

ニッポンチャレンジのアメリカズ・カップまでの予定であるが、'90~'91年とワールドマッチレースに参戦するかたわら、8月には2号艇が進水、11月に海外ベースキャンプが完成する予定だ。'91年に入って1月

から海外ベースキャンプ活動が開始され、5月から6月にかけてはアメリカズ・ワールドが予定されている。チャレンジャーシリーズは'92の初頭より始まり、4月の半ばから本戦となる。バルセロナ・オ

リンピックの1、2ヶ月前には決着がついていることだろう。

チームの組織を見てみると、NORCはエントリークラブとして位置付けられ、大儀見NORC副会長を含む10名の実行委員が運営にあたっ



大変、たいへんお待たせしました

'89 JAPAN CUP 公式ビデオ遂に発売!

前半20分は白熱のレースの模様、後半20分は参加35艇を紹介、と1本で2度楽しめます。ご希望の方は、現金書留で下記へお申し込み下さい。その際、VHSカバータ、どちらをご希望かを明記して下さい。

制作 日本外洋帆走協会

価格 6,500円 (送料、消費税込)

申し込み先: 〒105 東京都港区虎ノ門1-15-16 船舶振興ビル NORC 『J-Cup ビデオ係』 ☎03-504-1911



エントリークラブ

(社)日本外洋帆走協会
会長:石原 慎太郎

帆れニッポンキャンペーン

オフィシャルスポンサー(30社)

オフィシャルサプライヤー・
協力企業 (33社)

草の根応援団 (6,000名)

協力団体 (4団体)

ニッポンチャレンジ
アメリカ杯1991委員会

- ・会長 山崎 達光
NORC理事
(エスピー食品会長)
- ・副会長 江口 秀人
日本舟艇工業会会長
(ヤマハ発動機社長)

実行委員会

- ・山崎 達光 ・木村 太郎
- ・江口 秀人 ・長谷川 至
- ・大儀見 薫 ・野本 謙作
- ・黒木 昭光 ・ロイ・ディクソン
- ・小宮 功 ・高木 伸學



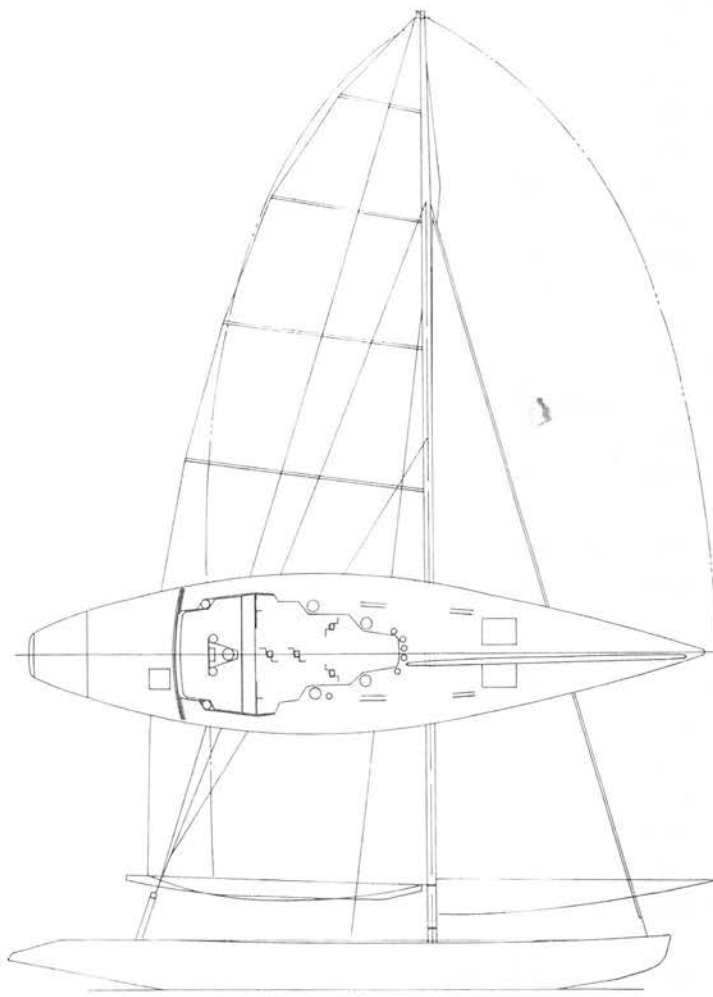
ニッポンチャレンジの組織

ている(図)。この中で「セーリング組織」にこのほどクリス・ディクソンが参加したのは先月号でお伝えしたが、記者会見では、「ニッポンチャレンジの最も大きなアドバンテージは、とにかく勝とうとする意志が組織の隅々まで浸透していること。」と強調していた。

早くから準備を進め、企業の協力も取りつけてきたニッポンチャレンジは、世界を見ても一歩先行している。このリードを保ち、念願のカップを奪取してもらいたいものである。

“NIPPON”の主要目

全長	24.00m
水線長	21.70m
最大幅	5.50m
吃水	4.00m
マスト高さ (水面上)	35.00m
帆面積	
メイン	212.6㎡
ジブ	97.0㎡
スピネーカー	465.0㎡
排水量	24.00 t
排水量 (計測状態)	22.00 t
乗員数	16人
速力 (風速10ノット時)	9.6ノット
艇体材質	カーボンファイバー・コンポジット
セール材質	ケブラー
バテン材質	カーボンファイバー・コンポジット



進水式で発表されたプラン。本誌1990年1月に載せたものとはデッキのレイアウトなどが多少変わっている

(写真・資料提供/ニッポンチャレンジアメリカ杯1991委員会)

第111回理事会議事録

社団法人日本外洋帆走協会

1. 日 時

平成2年2月24日(土) 1300~1450

2. 場 所

東京都港区虎ノ門1-15-16

船舶振興ビル 10F会議室

3. 出席者

理事30名中 出席18名 委任状10名
(出席)

大儀見薫, 秋田博正, 清水栄太郎, 久保和男, 並木茂士
朝河 清, 石井正行, 今岡又彦, 児玉萬平, 渡辺修治
柴田邦敏, 小林義彦, 川端治夫, 都築勝利, 秋山福夫
平岡英信, 松本哲, 末松明

(委任状)

石原慎太郎, 嶋田武夫, 鈴木康之, 林賢之輔, 宮坂敬三
山崎達光, 峰田昌矩, 三井祥功, 山田東吾, 岩田行史
理事以外出席

横山晃 (監事), 平松栄一 (顧問会議長)

初鹿野幸生 (帆走委員会副委員長)

長谷川富延 (東海支部)

4. 議 題

- (1) 1989年度事業報告及び収支決算報告
- (2) 1990年度事業計画及び収支予算案
- (3) 新入会員の承認及び会員・登録艇の現状
- (4) 1989年度会費滞納者 (除名予定者) について
- (5) 支部及び専門委員会報告
- (6) その他

5. 議 事

1300, 大儀見副会長の司会により開会, 久保常務理事から出席理事は28名である旨の報告があり, 本理事会の成立を確認, 大儀見副会長が議長となり, 議事録署名人に今岡, 石井両理事を指名し議事に入った。

議題(1) 1989年度事業報告及び収支決算報告について

大儀見議長から, 事業報告に関しては, 事前に総会資料として2頁から6頁にわたって報告されており, 読みあげは省略することとしたい, 旨の提案があり了承した。

次いで, 児玉財務委員長から, 収支決算について, 資料に基づき次の報告があった。

1989年度の収支状況は, 例年に比べ大変厳しいものになった。

89年度予算から組み入れられた新規収入項目, 賛助会費1300万円及び泊地調査委託費750万円が, 前者は計画を縮小して本年度にずれ込み, 後者は調査研究事業が受託できなかったことによって, 収入低下の最大の要因となったからである。従来の事業においては, レース, 会報面で収入見込みの甘さがあったが, 特別事業に関して

はゴムレース中止の影響があった一方で事業受託収入の増加があり, 460万円の増加となった。その他, 会費, 登録料等の経常収支は, ほぼ予定通りに推移した。

支出面においては, 三崎ヨット無線局改築移転にともなう大型支出 (予算内) 等があったが, 予算額を大幅に上回ったものは, 会報カラー化にともなう印刷制作費の増加 (340万円) がある。収入見込み事業の中止にともない名簿作成費等の支出を次年度に繰り越す等の措置をとったり, IMS推進事業の施行が遅れたりしたが一般の事業費に関しては残念ながら収支低下に見合う支出抑制はできなかった。従って次年度への繰越収支差額は, △3,181,106円となり, 正味財産増減差額は△5,224,970円となった。

財務委員会としては, ここ数年来, 特に事業補助金返上以来, 健全な収支を維持してきたことを考えると今回の収支状況は大変残念な結果と考えている。

収入見込みの大幅な差異は, 昨今のスポンサー付き大型イベントと当協会の取り組みのあり方に大きな問題が提起されたと考えている。年度予算と年度を超える大型プロジェクトの予算編成上の問題もさることながら先を見て十分なアロウアンスを考えた推進事業のあり方, 対外的に財政依存を行うときの契約, 管理の形態の確立等多くの課題が残された。これらの反省を踏まえて, 90年度の予算では, スポンサー付きイベントについては, 更に十分な詰めを行うと同時に支出に関しても十分な管理を求めてまいりたいと思っている。ついては, 会員の皆様のご理解とご協力をいただきたい。

そのほか, 資料の各表について詳細な説明があり, さらに本年1月22日運輸省監査の際, 1989年度収支予算 (案) (1989年度総会資料, P30及びP31) が支出が収入より多い, いわゆる赤字予算を組んでいるのは適当でない。修正されたいとの指摘を受け, 訂正を行った旨の発言があり, 了承した。

次いで, 横山監事から, 2月9日会計及び業務監査を飯島監事とともにに行ったが, 会計については, 適法かつ正確であり, 業務執行については, 法令定款に違反する事実はなかった旨の監査報告があった。

なお, 横山監事から, 飯島監事の提言として, 第1は, 総会資料の会員への送付が遅れがちである。これは, 事業年度の終了開始が, 年末年始にかかるため, 委員会, 事務局とも準備日数が厳しいところにある。通常総会は, 年度終了後2ヶ月以内に招集するとなっている定款を3ヶ月以内に改正することはできないか, 調査してもらいたい。第2は, 理事会マターではないが, 関東支部基金については, 最も有利な商品による財テクをし

てもらいたい、旨の発言があった。

そのほか、予算については、年度途中に必要なに応じて修正予算案の提出を考慮する必要がある旨の発言があった。

他に、質疑等はなく、本議案を承認した。

議題(2)1990年度事業計画及び収支予算案について

久保常務理事から、資料に基づき1990年度事業計画の説明があり、児玉財務委員長から、1990年度収支予算案について、予算編成の方針は、前回理事会での報告どおりである。収入の部では、(1)会費、登録料等は各支部からの報告を積みあげた。(2)事業費は、ほぼ各支部、各委員会の予算どおりとした。(3)特別事業は、各委員会の予算を中心とした。(4)会報等については、達成可能な数字を本年度より若干増とした。支出の部では(1)各支部、各委員会のものを集計した。(2)名簿作成費をたてた。との説明があり、さらに資料の諸表について詳細な解説があった。

また、資料のうち、予算(案)について、次のとおり、追加及び訂正する旨の発言があった。

収入の部

積立金取崩 7,500,000 (P28及びP30追加)

支出の部

借入金返済 7,500,000 (P29及びP30追加)

収入の部

前年実績・収入合計110,308,285 (P30訂正)

大儀見議長から、事業計画の補正として、レーススケジュールに11月第2週にニッポンカップレースを追加する、旨の発言があった。

他に質疑発言等はなく、本議案を承認した。

議題(3)新入会員の承認及び会員・登録艇の現状

大儀見議長から、新入会員の承認については、第113回理事会に一括上提するとの提案があり承認した。会費、登録艇の現状について説明報告があった。

議題(4)1989年度会費滞納者(除名予定者)について

清水専務理事から、資料別紙5のうち名簿作成後昨日までの間に会費を納付された2名については、未納名簿から削除していただきたい。未納者は計323名である旨の説明があり、大儀見議長から、除名については従来どおり猶予期間をおいた後、除名の手続きをとるということとで代議委員会に提案する旨報告があり、承認した。

議題(5)支部及び専門委員会報告について

○総務委員会

清水総務委員長から、代議員会へ提案するNORC次期役員名簿について説明があり、離任される嶋田、渡辺、矢野3理事、及び飯島監事に対して感謝の意の表明

があった。

また、大儀見議長からも同様謝意が述べられた。

○帆走委員会

初鹿野帆走副委員長から、2月に開催した全国帆走委員会での審議状況について

(1)カタマランについては、各専門委員会と合同で小委員会を設置して対処したい。

(2)ヨットオブザイヤーについては、NORCのヨットオブザイヤーのレースはジャパンカップだと思う。

二つのヨットオブザイヤーがあるとの考え方はできない。支部対抗が前提となるので、支部の選考レースに補助金を出して支部の活性化をうながすこととしたい。

(3)IMSについては、レースの運用は、計測委員会、技術委員会の援助を得て推進する。

との報告があった。

○通信委員会

清水専務理事から、資料に基づき、鈴木通信委員長の、マリンレジャー・マリンスポーツにおける通信手段の確保に関する調査研究会(郵政省電気通信局主催)の米国の実態調査報告に関する説明があった。

議題(6)その他

○松木理事から、大阪府が関西空港開港記念として企画した1994年開催予定の環太平洋ヨットレース(仮称)について、資料に基づくレース概要の説明と、大阪府からNORCに対するレース運営依頼の文書送付があり次第、運営を引き受けることとしたい、旨の提議があり、討議ののち、レース主催はNORCということをも前提に実行委員会を設置して対応することを承認した。

○大儀見副会長から

ニッポンチャレンジの挑戦艇ニッポン号が4月22日蒲郡において進水式を行うこととなった。実際は披露式でNORCの事業として、NORCとチャレンジの連名で実施するので承認願いたい旨提案があり、了承した。

さらに、横浜での12米のマッチレース(仮称・横浜カップ)は、取止めとなった旨、また、1991年9月~10月イギリスで、ジャパンフェアが開催されるが、その際、イギリスー日本の外洋レースの案がでている。RORCのアラン・グリーン氏から近く粗案が送付される予定である旨の報告があった。

他に、質疑意見等はなく、以上で審議を終了し、1450、第111回理事会を終了した。

上記議事録に誤りのないことを証明し、記名押印する。

平成2年2月24日 議長 大儀見 薫 ㊟

署名人 石井 正行 ㊟・今岡 又彦 ㊟

第12回代議員会議事録

社団法人日本外洋帆走協会

1.日 時 平成2年2月24日(土) 1500~1635

2.場 所 東京都港区虎ノ門1-15-16

船舶振興ビル 10F 会議室

3. 出席者

代議員113名中 出席18名 計66名
委任状48名

出席18名

橋本博、安岡信一、市村俊明、尾島祐太郎、高田尚之、高村宏、初鹿野幸生、古川保夫、大儀見薫、菅野道池田武邦、横沢真則、矢吹秀邦、小沢美弘、安原達明野口隆司、柴田邦敏、田中昭愛

委任状48名

小黒公一 ほか47名

代議員以外出席

清水栄太郎（専務理事）、平松栄一（顧問会議長）

兄玉萬平（財務委員長）ほか

4. 議題

- (1)1989年度事業報告及び収支決算報告
- (2)1990年度事業計画及び収支予算案
- (3)1990—1991年担当の理事・監事の選任
- (4)1989年度会費滞納者（除名予定者）について
- (5)その他

5. 議事

1500、大儀見副会長の司会により開会、出席代議員は、66名で代議員113名の過半数で本代議員会の成立を確認。

大儀見副会長が議長となり、議事録署名人に尾島祐太郎、小沢美弘両代議員を指名し、議事に入った。

議題(1)1989年度事業報告及び収支決算報告について

大儀見議長から、事業報告については、資料のとおりであり読み上げを割愛したい旨提案し了承を得、次いで兄玉財務委員長から、資料に基づき大要次の収支決算報告があった。

1989年度の収支状況は、例年に比べ大変厳しいものになった。

89年度予算から組み入れられた新規収入項目、賛助会費1300万円及び泊地調査受託費750万円が、前者は計画を縮小して本年度にずれ込み、後者は調査研究事業が受託できなかったことによって、収入低下の最大の要因となったからである。従来の事業においては、レース、会報面で収入見込みの甘さがあったが、特別事業に関してはゴムレース中止の影響があった一方で事業受託収入の増加があり、460万円の増加となった。その他、会費、登録料等の経常収支は、ほぼ予定通りに推移した。

支出面においては、三崎ヨット無線局改築移転にともなう大型支出（予算内）等があったが、予算額を大幅に上回ったものは、会報カラー化にともなう印刷制作費の増加（340万円）がある。収入見込み事業の中止にともない名簿作成費の支出を次年度に繰り越す等の措置をとったり、IMS推進事業の施行が遅れたりしたが一般の事

業費に関しては残念ながら収支低下に見合う支出抑制はできなかった。従って次年度への繰越収支差額は、△3,181,106円となり、正味財産増減差額は△5,224,972円となった。

財務委員会としては、ここ数年来、特に事業補助返上以来、健全な収支を維持してきたことを考えると今回の収支状況は大変残念な結果と考えている。

収入見込みの大幅な差異は、昨今のスポンサー付き大型イベントと当協会の取り組みのあり方に大きな問題が提起されたと考えている。年度予算と年度を越える大型プロジェクトの予算編成上の問題もさることながら先を見て十分なアローアンスを考えた推進事業のあり方、対外的に財政依存を行うときの契約、管理の形態の確立等多くの課題が残された。これらの反省を踏まえて、90年度の予算では、スポンサー付きイベントについては、更に十分な詰めを行うと同時に支出に関しても十分な管理を求めてまいりたいと思っている。については、会員の皆様のご理解とご協力をいただきたい。

そのほか、資料の各表について詳細な説明があり、さらに本年1月22日運輸省監査の際、1989年度収支予算（案）（1989年度総会資料、P30及びP31）が、支出が収入より多い、いわゆる赤字予算を組んでいるのは適当でない。修正されたいとの指摘を受け、訂正を行った旨の発言があり、了承した。

次いで、横山監事から、2月9日会計及び業務監査を飯島監事とともに行ったが、会計については、適法かつ正確であり、業務執行については、法令定款に違反する事実はなかった旨の監査報告があった。

なお、横山監事から、飯島監事の提言として、第1は、総会資料の会員への送付が遅れがちである。これは、事業年度の終了開始が年末年始にかかるため、委員会、事務局とも準備日数が厳しいというところにある。通常総会は、年度終了後2ヶ月以内に招集するとなっている定款を3ヶ月以内に改正することはできないか、検討してもらいたい。第2は、代議員会マターではないが、関東支部基金については、最も有利な商品による財テクをしてもらいたい。旨の発言があった。

他に、質疑等はなく、本議案を承認した。

議題(2)1990年度事業計画及び収支予算案について

大儀見議長から、事業計画については資料のとおりであり読み上げを割愛したい旨発言があり了承を得、さらに補足として、IMS、通信委員会のマリンレジャーにおける通信手段の確保に関する調査研究委員会、レーススケジュールに11月第2週のニッポンカップレースを加えること、アメリカズカップ挑戦艇の進水式、環太平洋レース、横浜カップレースの中止、等について説明があった。次いで、兄玉財務委員長から収支予算案について、予算編成の方針は、前回理事会での報告どおりであ

る。収入の部では(1)会費、登録料等は各支部からの報告を積みあげた。(2)事業費は、ほぼ各支部、各委員会の予算どおりとした。(3)特別事業は、各委員会の予算を中心とした。(4)会報等については、達成可能な数字を本年度より若干増とした。支出の部では(1)各支部、各委員会のものを集計した。(2)名簿作成費をたてた。との説明があり、さらに資料の諸表について詳細な解説があった。

また、資料のうち、予算案について、次のとおり、追加及び訂正する旨の発言があった。

収入の部

積立金取崩 7,500,000 (P28及びP30)
追加

支出の部

借入金返済 7,500,000 (P29及びP30)
追加

収入の部

前年実績・

収入合計 110,308,285 (P30訂正)

質疑に対し、大儀見議長から、アメリカズカップ及びアメリカズカップ1991チャレンジ委員会の詳細な説明があった。他に質疑等はなく本議案を承認した。

議題(3)1990-1991年担当の理事・監事の選任について

清水専務理事から、資料の役員名簿に基づき、1990年及び1991年担当役員について、退任は関東の渡辺、嶋田氏及び東海の矢野氏、新任は関東から安岡、古川氏及び東海から長谷川氏の3氏、監事では飯島氏が退任、理事を退任した渡辺氏が新任である旨の説明があった。審議に入って、関東支部選出代議員から、理事監事は代議員から選挙で選出すべきであり、定款改正を含めて検討してもらいたい。定款改正については、代議員会で提案書を作成し、それを理事会で審議してもらいたい。またNORC活性化のためには、出席の少ない理事は除外してもらいたい。等の意見が出され種々討論の後、大儀見議長から、代議員会の活性化は代議員の問題であり、出席率を高めていただきたい。選挙あるいは定款改正等の問題は、次の代議員の選出までにまず代議員会で代議員の代表者と執行部の然るべきメンバーで小委員会を設け検討し、その結果を理事会に付議するという方法が良いと思うが、このことを踏まえて本議案の承認を諮りたい旨提案があり、本議案を了承した。(役員名簿は、別紙として本議事録に添付することとした。)

議題(4)1989年度会費滞納者(除名予定者)について

清水専務理事から資料の名簿のうち昨日までに会費を納付された2名については、名簿から削除していただきたい、総数323名である旨の説明があり、昨年同様しばらく猶予期間を置いてから手続きをとることとしたい旨の説明があり、質問等なく本議案を承認した。

議題(5)その他

小沢代議員(関東支部帆走委員長)から、レーススケジュールに、5月2日～5日ミドルボートシリーズ関東

及び5月4日CR普及レース関東を追加されたい。旨の報告があった。

他に、質疑意見等はなく、以上で議事を終了、1635第12回代議員会を終了した。

上記議事録に誤りのないことを証明し、記名押印する。

平成2年2月24日

議長 大儀見 薫 印

署名人 尾島祐太郎 印

署名人 小沢 美弘 印

役員名簿(1990年-1991年 担当)

社団法人 日本外洋帆走協会

理事

氏 名	新重	住 所
朝河 清	重任	東京都港区白金3-21-7
石井 正行	"	横浜市金沢区片吹15-11
石原慎太郎	"	東京都大田区田園調布1-44-2
今岡 又彦	"	藤沢市辻堂東海岸3-9-41
大儀見 薫	"	神奈川県中郡二宮町山西45
久保 和男	"	小平市上水本町2-6-2
児玉 萬平	"	東京都目黒区中目黒1-8-12
清水栄太郎	"	東京都文京区音羽2-1-20
鈴木 康之	"	横須賀市ハイランド1-40-10
並木 茂士	"	横浜市神奈川区白楽39
林 賢之輔	"	横須賀市秋谷1-1-29
古川 保夫	新任	東京都品川区大井5-16-12
宮坂 敬三	重任	横須賀市馬堀海岸4-1-5-401
安岡 信一	新任	川崎市幸区南幸町1-33
山崎 達光	重任	東京都文京区小日向2-21-6
柴田 邦敏	"	清水市八坂北1-2-20
峰田 昌矩	"	静岡県駿東郡清水町久米田94
小林 義彦	"	半田市新居町3-45
川端 治夫	"	久居市東鷹跡町43-3
長谷川富延	新任	名古屋市中区栄1-29-23
都築 勝利	重任	高浜市小池町6-5-17
三井 祥功	"	京都市南区東九条南烏丸町35-6 南烏丸団地1-114
秋山 福夫	"	京都市山科区川田御出町33
秋田 博正	"	芦屋市山手町31-26
平岡 英信	"	大阪市天王寺区北山町8-11
松本 哲	"	芦屋市潮見町3-4-4
山田 東吾	"	明石市大久保町高丘6-2-19
岩田 行史	"	広島市西区已斐中2-3-10
末松 明	"	福岡市南区井尻3-10-17
東江 正喜	"	浦添市沢崎955-2

監 事

横山 晃	重任	横浜市磯子区岡村4-18-19
渡辺 修治	新任	神奈川県三浦郡葉山町堀内588

第112回理事会議事録

社団法人 日本外洋帆走協会

1. 日 時

平成2年2月24日(土) 1640~1725

2. 場 所

東京都港区虎ノ門1-15-16

船舶振興ビル 10F会議室

3. 出席者

理事30名中 出席19名

(出席)

大儀見薫, 秋田博正, 清水栄太郎, 久保和男, 朝河清
石井正行, 今岡又彦, 児玉萬平, 古川保夫, 安岡信一
柴田邦敏, 小林義彦, 川端治夫, 長谷川富延, 都築勝利
秋山福夫, 平岡英信, 松本哲, 末松明

理事以外の出席

横山晃(監事), 渡辺修治(監事), 平松栄一(顧問会議長)
初鹿野幸生(帆走委員会副委員長)

4. 議 題

(1) 主要役員の選任について

(2) その他

5. 議 事

1640, 大儀見理事の司会で開会, 出席理事は19名で本
理事会の成立を確認, 大儀見理事が仮議長となり, 議事
録署名人に石井, 今岡両理事を指名, 議事に入った。

議題(1) 主要役員の選任について

清水理事から, 役職についての理事・監事候補者名簿
の提出があり, 新任, 退任の理事, 監事及び委員長, 顧
問についての報告の後, 会長, 副会長, 専務理事を互選
により選出, (大儀見副会長, 議長となる) 次いで, 常務
理事については会長(副会長)が指名し, 総務委員長に
は規約により専務理事がなり, また, 他の専門委員長は
互選に基づき会長(副会長)が指名し, 支部長について
は理事会の同意に基づき会長(副会長)が任命した。顧
問については理事会の同意に基づき会長(副会長)が委
嘱した。

以上により, 提出名簿のとおり承認した。(役職につ
いての「理事・監事・候補者推薦名簿」は, 本議事録に
添付することとした。)

清水専務理事から新任の古川, 安岡両理事, また, 小
林東海支部長から同長谷川理事の紹介があった。

議題(2) その他

* 清水, 朝河, 石井各理事から, ミドルボート委員会
及び同レースに関する報告があった。

* 大儀見副会長から, JYRUに関し, NORCとJ
YAとの会合を更に緊密に発展させ, 早急にJYRUの
結成に向け努力し, なんとか成果をあげたい。旨の表明
があり, 秋田副会長からもJYAとしても同様の考えで

あり, 会合を早急に持って以後の進展を期待する。旨の
発言があった。

他に質疑意見等はなく, 以上で審議を終了し, 1725,
第112回理事会を終了した。

上記議事録に誤りのないことを証明し, 記名押印する。

平成2年2月24日 議 長 大儀見薫 印

署名人 石井正行 印

署名人 今岡又彦 印

(112理) 理事・監事・候補者推薦名簿

	氏 名	役 職
理 事	石原慎太郎	会長
	大儀見 薫	副会長, 国際小委員長 (※IMS推進委員長)
	清水栄太郎	専務理事, 総務委員長
	久保和男	常務理事
	並木 茂士	関東支部長, 技術担当
	朝河 清	海軍思想普及委員長
	石井 正行	ルール委員長(※広告問題特別委員長, ナショナルジャッジ資格審査委員長)
	今岡 又彦	法政委員長
	児玉萬平	財務委員長
	鈴木 康之	通信委員長
"	林 賢之輔	計測委員長
	古川 保夫	安全担当
	宮坂 敬三	帆走委員長
	安岡 信一	泊地対策委員長
	山崎 達光	
	柴田 邦敏	駿河湾支部長
	峰田 昌矩	
	小林 義彦	東海支部長
	川端 治夫	
	長谷川 富延	
"	都築 勝利	
	三井 祥功	近畿北陸支部長
	秋山 福夫	
	秋田 博正	副会長, 内海支部長 (※D・H特別委員長)
	平岡 英信	
	松本 哲吾	
	山田 東吾	
	岩田 行史	西内海支部長
	末松 明	玄海支部長
	東江 正喜	沖縄副支部長
監 事	横山 晃	
	渡辺 修治	
顧 問	平松 栄一	顧問会議長, 関東支部 関東支部
	関根 久昭	"
	福永 幸夫	"
	名和 一郎	"
	堀路 元治	"
	飯島 武夫	"
	嶋田 忠男	"
	加藤 名一	内海支部
	貴伝 良	"
	野本 謙作	玄海支部
専門 委員長	大原 敦	
	近藤 慎一	会報小委員長 安全委員長 技術委員長
支部長	江 高橋 太郎	
	城間 祥行	沖縄支部長 津軽海峡支部長 北海道支部長
	米山 義勝	
	船木 幹也	

(※) …清水専務理事注。

第34回総会議事録

社団法人日本外洋帆走協会

1. 日 時 平成2年2月24日(土) 1730~1810

2. 場 所 東京都港区虎ノ門1-15-16

船舶振興ビル 10F会議室

3. 出席者 934名 (うち委任状890名)

4. 議 題 (1)1989年度事業報告及び収支決算報告

(2) 1990年度事業計画及び収支予算報告

(3) 1990年-1991年担当の理事・監事の選任報告

(4) 1989年度会費滞納者(除名予定者)報告

(5) その他

5. 議 事

1730, 大儀見副会長の司会により開会, 出席会員は93名で会員総数3872名の5分の1以上で本総会は成立することを確認, 大儀見副会長が議長となり, 議事録署名人に菅野道, 小沢美弘両氏を指名, 議事に入った。

議題(1) 1989年度事業報告及び収支決算報告について

大儀見議長から, 事業報告については, 資料のとおりであり読みあげを割愛したい旨提案があり, 了承を得, 次いで児玉財務委員長から, 資料に基づく報告があった。次いで横山監事から, 2月9日に実施した会計監査の結果は, 適法かつ正確であり, 業務執行については法令定款に違反する事実はなかった旨の報告と, 飯島監事の提言として, 総会資料作成等の準備日数に余裕をもたせるため, 通常総会は年度終了後2ヶ月以内に招集するとされている定款を, 3ヶ月以内と改めることはできないか検討してもらいたい。また, 関東支部マターであるが関東支部基金については, 最も有利な商品による財テクをしてもらいたい。旨の発言があった。

本議案についての質問等はなかった。

議題(2) 1990年度事業計画及び収支予算報告について

大儀見議長から, 事業計画については, 資料のとおりであり読みあげを割愛したい旨提案があり, 了承を得, さらに補足として, IMS, マリンレジャーにおける通信手段の確保に関する調査研究委員会, レーススケジュールに11月第2週のニッポンカップレース, 5月2~5日ミドルボートシリーズ及び5月4日CR普及レースを追加すること, アメリカズカップ挑戦艇の披露進水式が4月22日蒲郡で行われること等について, 説明があった。次いで, 児玉財務委員長から, 資料に基づいて, 収支予算について各表の説明があった。

なお, 総会資料について, 次の追加訂正があった。

(追加 P28及びP30)

収入の部	積立金取崩	7,500,000
------	-------	-----------

(追加 P29及びP30)

支出の部	借入金返済	7,500,000
------	-------	-----------

(訂正 P30)

収入の部	前年度実績・収入合計	110,308,285
------	------------	-------------

本議案についての質問等はなかった。

議題(3) 1990年-1991年担当の理事・監事の選任報告について

大儀見議長から, 大要次の報告があった。

先ほどの第12回代議員会で新役員が選任された。理事の選任は, 各支部から選ばれた候補者を代議員会で選任したものであるが, その前の段階の関東支部代議員会において15名の理事候補者について, 本来選挙で支部からの候補者を選ぶべきだとの意見が出て, 関東支部からは, 付帯条件付で第12回代議員会にあげることとなった。代議員会では, 1年の間に, 代議員会と理事会の然るべきメンバーで具体的に対応策を検討し理事会に付議するという付帯条件付で30名の新理事が承認選任された。

この件に関し, 新理事会において早急に担当理事等を決めていただきたいとの発言があり, 大儀見議長から, 時間の制約があつて未定であるが, 代議員会において, 臨時代議員会というような形で集まって早急に意見を出していただきたい。旨の発言があった。

また, 大儀見議長から, 第12回代議員会で選出された理事等役員については, 第112会理事会において, 同理事会配布資料のとおり, 互選等規約に基づき役職が決定された。(配布資料 理事・監事・候補者推薦名簿(112理)は, 本議事録に添付することとした。)理事の新任は古川, 安岡, 長谷川の3氏, 退任は嶋田, 渡辺, 矢野の3氏, 監事の新任は渡辺氏, 退任は飯島氏, 専門委員長は, 新任技術委員長高橋氏, 退任泊地対策委員長平野氏で他は留任である旨, また, 職務分担は, 資料のとおりである旨の報告があった。

ほかに, 本議案についての質問等はなかった。

議題(4) 1989年度会費滞納者(除名予定者)報告について

大儀見議長から, 資料による報告があった。

議題(5) その他

* 大儀見議長から, JYRUについて, JYAとともに現在の最重要課題として一層の努力を重ね早急に設立することが先ほどの理事会で確認された。旨報告があった。

* 総会と代議員会とを共催することの要望があり, 大儀見議長から, 規約上は可能であろう, 代議員会としての議決方法に問題が生じないようにすれば共催も差し支えないと思う。今後検討する。との発言があった。

他に, 発言等はなく以上で議事を終了, 1810, 第34回総会を終了した。

上記議事録に誤りのないことを証明し, 記名押印する。

平成2年2月24日	議長 大儀見 薫	印
署名人 菅野 道	印	署名人 小沢 美弘
	印	

『ケンウッドカップ』ナショナルチーム編成について

国際小委員会

『ケンウッド・カップ』のナショナルチーム編成に關し、3月に2回目のアンケート調査が行われ、その内容と、その後の関連艇の国内外でのレースの実績とを踏まえて、最終的にチーム編成を決定するための国際小委員会の会議が4月5日に本部で行われました。

第1回のアンケート調査の時点と異なった要素としては次の点があげられます。

1) 参加未定であった“海太郎” “LUCKY LADY” がそれぞれ新艇で参加する。

“海太郎 V” は2トン, “LUCKY LADY” はニュージーランドの1トン “PROPAGANDA”。

2) 「参加の可能性あり」の“DONKY V”, “S IESTA” が不参加に決定。

3) 同じく「可能性あり」であった“飛梅” と “SWING” が参加確定。

4) “BENGAL V” が各地の50ftレースに出場し, “WILL” と 互角または互角以上の成績をあげた (艇名は “TIGER” と改められた)。

以上の新しい要素を踏まえ、下記の如く、ナショナル・チーム 3チームを編成することが決まりました。

BLUE TEAM

- ・ “WILL” 50ft
- ・ “TIGER” 50ft
- ・ “SWING” 2TON

(『JAPAN CUP』優勝艇)

予備艇 “PROPAGANDA” 1TON

GREEN TEAM

- ・ “BLUE NOTE” 1TON
- ・ “BOY” 1TON
- ・ “ARECAN BAY” 1TON

予備艇 “DANDELION”

YELLOW TEAM

- ・ “KAITARU V” 2TON

・ “TOBIUME”

・ “LIBERTE EXPRESS” 1TON

予備艇 “SPICA”

なお、今回のアンケートでチーム編成についての理由を明確にして欲しいとの意見が2艇より出されました。この意見は当然のことですが、全艇が同じ条件で国内選考レースをやることが出来ない状況では、総合的な判断で決めるしか方法は無く、各艇の実績、の建造年、クルーの実績等々の諸要素を勘案して決定せざるを得ず、以上の編成が「勝てるチーム作り」という観念からベストと判断して決定致しましたことを報告申し上げます。

クラブ・チームはエントリーフォームに記載された所属クラブ別に構成されることとなっており、NORCクラブ・チームを別途構成する可能性が残されています。



昨年の『ジャパンカップ』での“SWING”(上)と“ARECAN BAY”

安い航空券と

ホテル

ケンウッドカップ参加艇の方へ!

ハワイ 1人 **126,000** より

東京発ユナイテッド航空使用 Yクラス 他にC・Fクラスあり

但し日付により値段変更があります。詳しくはご一報下さい。

サザンクロスツーリスト(株)

(旧社名プラスワントラベル(株))

東京都新宿区西新宿7-10-17

☎03-227-3781

ジャパンカップオフショアシリーズ1990実行委員会からのお知らせ

実行委員長 並木茂士

1990年度の『ジャパンカップオフショアシリーズ』は3月29日及び4月16日に実行委員会が開催され、実質的な準備活動が始まりました。今月から毎月オフショア誌上で『ジャパンカップ』に関するニュースを掲載していきます。

本年度実行委員長には並木茂士が、レース委員長には今岡又彦が決定しました。又、レース運営スタッフも、よりグレードの高いレースを目指し、緻密な運営を行うため昨年と同じスタッフが担当することになりました。

年々改善が行われてきている受け入れ泊地等に関しても、今年はサーフ'90が開催された後の施設を利用できる事がほぼ決定していますので、皆様のご期待に少しでも応えられると思います。

開催地は昨年と同様に神奈川県城ヶ島沖で開催されま

す。

開催日時はここ数年、10月10日の休日(体育の日)をはさんでの開催が恒例になってきていますので本年度も同様としました。なお、オフショアでお知らせした、第4レースの開催予定日を10月10日(水)体育の日と訂正します。従って、10月11日はスペアデーとなりました。これは少しでも多くの観覧者(艇)に来ていただきたいからです。

10月5日(金)インスペクション

10月6日(土)第1レース インショアレース

10月7日(日)第2レース インショアレース

10月8日(月)第3レース ショートオフショアレース

10月10日(水)第4レース インショアレース

10月11日(木)スペアデー

10月12日(金)第5レース ロングオフショアレース

第6回ジャパン・グアムヨットレースのお知らせ

1. スタート日時: 1990年12月28日(金)12:00 スタート

に取付けのこと(定時交信あり)

2. 出国手続 : 1990年12月27日(木)

7. 広告表示: A

3. 第2レース日時: 1991年1月6日(日)9:00~14:00

8. 出場艇数: MAX30艇まで(泊地の関係により)

(親善レース)

(グアム時間)

9. エントリーフィー: 10~12m 7万円

4. 表彰式・パーティ: 1991年1月6日19:00~21:00

12~15m 8万円

知事公舎

15m以上 9万円

5. 出場資格: L.O.A.10m以上で、IORもしくはIM

10. 申込受け付け: 1990年7月1日~9月20日まで

Sレーティングを持つ艇 カテゴリ-I

尚、申込にはエントリーフィーを添

6. 通 信: SSB 推薦備品(新設については補助制

えて提出して下さい。30艇に達した

度あり), VHF, EPIRB 必須条件

時点で申込締切とさせていただきます。

但しVHFアンテナは必ずマストトップ

SURF'90 MIURA YACHT RACE (Aクラス)成績表

No.	艇 名	Rating	RATE	所要時間	修正時間	得 点	順 位
3335	ORI HIME	10.00	532	0.4051	-209	19.25	1
4241	G' NET	9.55	541	0.4418	-47	18	2
3555	OIDON	7.80	587	0.4816	-39	17	3
1993	ASTERIX IV	7.20	606	0.5005	-25	16	4
3746	PEANUTS	5.30	685	0.5641	-24	15	5
1616	SEA WITCH	8.90	557	0.4710	45	14	6
3529	PANDORA	6.35	637	0.5355	50	13	7
4176	HUMMING BIRD	7.35	601	0.5203	118	12	8
2613	GONBEI V	6.55	629	0.5440	135	11	9
3580	RYUO MARU	7.35	601	0.5232	147	10	10
2735	TRADE WINDS CLOUD	6.65	626	0.5721	311	9	11
3980	FIRST	8.75	561	D N C	D N C	3	—
3224	LUCK LADY	11.45		D N C	D N C	3	—
670	VALET OF ROCINANTE	5.05	698	P M S	P M S	4	12
3657	ERANOL II	4.80	713	D N C	D N C	3	—
4288	WINGS III	7.30	603	D N F	D N F	4	12
2000	GEKKO	9.20	549	D N F	D N F	4	12
1897	TORNADO II	6.65	626	P M S	P M S	4	12
380	TITIS	8.60	565	P M S	P M S	4	12

第2回 関東ミドルボート選手権成績表

IOR DIVISION FINAL LIST

1, 2R 5月3日, 3R 5月4日開催 レース委員長 大津 勉

No.	艇名	Rating	Weight	T.C.F.	1R得点	2R得点	3R得点	合計	順位
4324	フロディタ Jr	22.94	600	0.7390	29	28	28	85	1
3201	青波行	22.87	599	0.7382	30.25	30.25	24	84.5	2
3561	CAETLA	24.73	662	0.7573	22	24	29	75	3
1088	インデペンデンス V	23.09	607	0.7405	28	20	26	74	4
2979	SEA CROWN	22.85	598	0.7380	27	16	25	68	5
3306	RIPPLE III	23.09	606	0.7405	1	29	30.25	60.25	6
3386	スーパーエスメラルダ	24.95	669	0.7595	24	21	10	55	7
1155	一乗 III	22.46	585	0.7339	17	22	15	54	8
3001	HALF TIME	25.90	701	0.7689	26	14	13	53	9
3710	JE REVIENS	22.94	602	0.7390	20	12	20	52	10
3888	PHOEBEE	23.23	611	0.7420	16	11	23	50	11
3530	サマーノーズ	24.63	658	0.7563	1	27	22	50	12
3714	風神丸	22.76	595	0.7371	19	13	12	44	13
3018	ドンキーインパルス	24.62	658	0.7562	1	25	17	43	14
3387	BASIC	21.58	556	0.7245	23	1	18	42	15
3825	ROUGE	22.94	602	0.7390	1	19	19	39	16
3838	カレントネラ	24.54	655	0.7554	1	10	27	38	17
381	八丈	25.52	688	0.7652	15	8	14	37	18
3055	SAMOA V	21.86	565	0.7275	25	1	7	33	19
3839	海援隊	24.58	657	0.7558	18	15	0	33	20
3510	TRACER	22.08	573	0.7299	14	1	16	31	21
3809	写楽	25.23	678	0.7623	1	9	21	31	22
2182	KELONIA	24.12	641	0.7511	1	17	11	29	23
4147	CHAR CHAN	24.54	655	0.7554	1	26	2	29	24
3711	BANG DIT	22.60	590	0.7354	21	1	6	28	25
3002	SHYLPHEDES	24.55	656	0.7555	1	23	2	26	26
4040	SHADOW	22.17	576	0.7309	1	18	1	20	27
3518	は組	22.71	594	0.7366	1	1	9	11	28
4218	NAPOLEON	22.76	596	0.7371	1	1	8	10	29
2219	PEGASUS	18.93	467	0.6951	1	1	5	7	30

5月5日の第4レース・第5レースは強風の為、ノーレース

表彰

IOR DIVISION 総合賞

優勝	4324	フロディタ Jr	85.00点	タカキューカップ・三浦市長杯
2位	3201	青波行	84.50	ミドルボートオーナーズクラブ杯
3位	3561	CAETLA	75	"
4位	1088	インデペンデンス V	74	"
5位	2979	SEA CROWN	68	"
6位	3306	RIPPLE III	60.25	"

IOR DIVISION 7マチュア賞

優勝	1088	インデペンデンス V	74.00点	ミドルボートオーナーズクラブ杯
2位	1155	一乗 III	54	"
3位	3710	JE REVIENS	52	"
4位	3888	PHOEBEE	50	"
5位	3530	サマーノーズ	50	"
6位	3714	風神丸	44	"

IOR DIVISION シニアボート賞

総合18位	381	八丈	37点	ミドルボートオーナーズクラブ杯
—1984.4.20 IOR 計測証書 取得—				

IOR DIVISION 特別賞

ファミリー、オーナー&スキッパー賞	3055	SAMOA V	会場の拍手で決定 YOK艇のナビー
クレイジーユニフォーム賞	1155	一乗 III	
朝エスマリン賞	2182	KELONIA	

CR DIVISION FINAL LIST

1 R, 2 R 5月3日, 3 R 5月4日開催 レース委員長 大津 勉

No.	艇 名	Rating	定員	1 R	2 R	3 R	総 合	順位
1733	UFO	6.95		24.25	23	21	68.25	1
3740	TUPAMAROSS	7.90	8	23	1	24.25	48.25	2
4151	LIBRA	7.75	10	20	24.25	1	45.25	3
3213	キャプテンカリブ	7.00		21	1	19	41	4
3592	LAHAINA III	7.30		22	1	6	29	5
3639	CRISTPHER II	7.15	10	1	1	23	25	6
319	KAMAKURA II	7.00	12	1	1	22	24	7
368	赤城	7.35	12	1	1	20	22	8
4065	SOALING	6.80	12	1	1	18	20	9
3426	ダンスオブマジック	6.55	10	1	1	17	19	10
3988	ARIADONE	7.15	12	1	1	16	18	11
669	コルパッチ II	7.40	10	1	1	15	17	12
4018	華子	6.85	12	1	1	14	16	13
2502	KUVERA II	6.60	12	1	1	13	15	14
3967	CARIBBEAN	7.25		1	1	12	14	15
2967	HOLIDAY	6.80	10	1	1	11	13	16
663	MAX	6.75	10	1	1	10	12	17
3590	VIGOROUS	7.15		1	1	9	11	18
3877	GUANDALINA	6.30	12	1	1	8	10	19
2690	くろしお	7.90	16	1	1	7	9	20
4280	SARA	7.30	10	1	1	5	7	21
4092	ドクターウィッチ	6.50		1	1	3	5	22
1985	波勝	7.05		1	1	3	5	23
3226	AMISTAD II	6.60	10	1	1	1	3	24

5月5日の第4レース, 第5レースは強風の為ノーレース

表 彰

CR DIVISION 総合賞

優勝	1733	UFO	68.25点	タキキューカップ 三浦商工会議所杯 ミドルボートオーナーズクラブ杯
2位	3740	TUPAMAROS	48.25	
3位	4151	LIBRA	45.25	
4位	3213	キャプテンカリブ	41.	
5位	3592	LAHAINA III	29.	
6位	3639	CRISTPHER II	25.	

CR DIVISION 7マチュア7賞

優勝	4151	LIBRA	45.25点	ミドルボートオーナーズクラブ杯
2位	3213	キャプテンカリブ	41	"
3位	3592	LAHAINA III	29	"
4位	3639	CRISTPHER II	25	"
5位	319	赤城	22	"
6位	4065	SOALING	20	"

CR DIVISION 特別賞

レディス・チーム賞	3877	GUANDALINA	嘉悦女子短大
遠来賞	4280	SARA	木更津
朝日ヤマハ東京賞	1733	UFO	ヤマハ艇の1位
朝日エースマリン賞	4018	華子	YOK艇のナビー
朝日ニュージャパン賞	3592	LAHAINA III	同社艇の1位

SURF'90 MIURA YACHT RACE (Bクラス)成績表

No.	艇 名	得点	順位
3295	SOUMI	7.25	1
4166	DONBURA	6	2
3807	AGURI	5	3
YA-25	MY FAIR LADY	DNC	
	HALY QUEEN II	DNF	4
YA-25 II	EQRIPCE	DNC	
3663	EBB TIDE	PMS	4

Aクラス, Bクラスとも5月4日11:00スタート
レース委員長 古川保夫

1/2トン, 1/4トン, ミニトンに関するアンケート集計結果

質問の主旨

昨年11月のORCの会議では、本誌にも報告した通り、IORはルールを向う6年間改定せず、現在のルールを安定維持することで存続が計られることとなりました。

しかし同時にIORが「金³が掛る、寿命³が短い、プロの乗り手でなければ勝てない」等のF1的性格が免れないことから、小型IOR艇が将来存続できるのか、あるいはどういう形で残すのかが真剣に討議されました。

その結果、コスト高がこれら「小型IOR」の普及と存続を妨げる大きな要因となっているとの認識に立って、25.0ft以下の艇については使用出来る素材等についてIMSと同じような制限が導入されました。

しかし、これだけで、この「小型IORクラス」の将来が必ずしも安泰というわけではなく、その後、IORクラス（Level Rating）委員会でも色々検討が続けられて来ました。その結果、1/2トン、1/4トン、ミニトンの下限の三クラスの在り方について次のようなアンケートをORCのカウンシルメンバー、各ORC委員会のメンバーを通して広く関係各位を対象に実施し、今後の対応策を立てる上での参考とすることが決まりました。

対象は、1/2トン以下のクラスのみで、アンケートの内容もヨーロッパ中心のかなり身勝手なものもありますが、IOR艇のオーナーばかりでなく、広くIMSやクルーザー・レーティングを含む外洋レーサーの今後の在り方にも大きな影響をもたらすことにもなるので、オーナー各位でこの問題に関心のある人はこのアンケートにご意見を寄せ、広く協力して戴きたいと思ひます。

(国際小委員長 大儀見 薫)

集計結果

全支部のNORC特別会員約700名を対象に調査を行った結果、ハガキ返却数125枚（無効・無回答4枚）

1/2トン以下のクラスの世界選手権レースの参加が過去三年間低減して来たことを念頭に置き、その活性化の方策として、貴方は、

①この三クラスの内、二クラスは廃止し、一クラスのみとすることに賛成でしょうか？

賛 61 否 58

② 上記に賛同される場合、どのクラスを残すべきだと思いますか？

ミニトン 8

1/4トン 5

1/2トン 45

③上記の選択について、その理由は何でしょうか。

賛のうち

ミニトンを残したい理由

・経済性、普及率

- ・外洋ヨットの入門クラスとして適当である
- ・活発な活動をしているから

1/4トンを残したい理由

- ・ある程度の航海に耐え、費用もそれ程かからない
- ・サイズの間であるから
- ・レベルレーティングに適当な寸法である

1/2トンを残したい理由

- ・艇の大型化が時代の流れである
- ・他の2クラスはローカルに徹すれば良い
- ・他の2クラスは外洋ヨットとして構造、適正等に問題がある

否とした理由

- ・外洋帆走艇の基礎となる小型クラスを廃止するのはレベルの向上にマイナスになる
- ・各クラスそれぞれに特性があり、一クラスに限定すべきでない
- ・それぞれのクラスに強いニーズがあり、オーナーの構成、性格に大きな差がある

④もし、二クラスもしくは三クラスが全部存続することになった場合、その世界選手権レースは、
一ヶ所て同一イベントとして行なわれた方が良い 91
従来通りそれぞれ別々に行なう方が良い 24

⑤これ等クラスの世界選手権レースの活性化のため、「イベント化」を計ることで、参加者にとっても一般観客にとっても魅力のあるものにすべきと思われますか？ 賛 105 否 11

⑥オーナーの経費負担を軽減するために、同一地点で連続して3～4年間同一クラスの世界選手権レースを開催することについてどう思われますか？

このような対応は、例えば3～4年間はバルチック海に次の3～4年間は地中海、次は英仏海峡の海域で行なうといったやり方で、同一クラスの艇が同一海域に止まることを可能にし、運送費の負担を軽くすることができると思われますか？

賛 49

- 理由
- ・ぜひ日本で開催してもらいたい
 - ・開催地の人々と深いつきあいができる
 - ・レース海面に適した艇のデザインが可能だから

否 65

- 理由
- ・日本と関係ない
 - ・遠隔地のオーナーは結局、経済面で負担が大きい
 - ・艇の維持、管理に不安がある
 - ・運送費の代わりに管理費がかかる
 - ・1ヶ所に3～4年は長すぎる、3～4年も同じ艇に乗らない

・色々な海を帆走の方が楽しい

⑦もし、今日の小型レベル・レーティングクラスそのものが、もう存続することが難かしいとお考えでしたら、全く新しいタイプの艇を採用するとして、その新しいクラスについてどう考えられますか？

1) 建造費は安く、特殊素材は禁止する 58

2) 解り易いルールを使う

(簡易クラス Keep it Simple Class) 52

3) 限定IORプロダクション艇を使う 23

4) スペシャルレギュレーションはカテゴリ-IVとし、オーバーナイトのレースは一つとする 20

5) セーリングが面白い、風下へはプレーニングできるような艇 17

6) トレーラー運搬ができるよう最大幅は2.5m以内とする 12

7) 28ft以下にする 10

8) 3人乗りにする 8

以上もしくは別項のコメント

・セーリングがヨットの原点だと思う

・どんなサイズ、型にしても問題は起こり、解決しないと思う

・底辺があって頂点があるレースにすべき

・誰でもレースに参加できるシステム作りが必要である

・プロ、業者を除いたピュアマチュアのクラスを設定すべき

アンケート結果について一大儀見国際小委員長

ORCのレベルレーティング委員長が呼びかけた、 $\frac{1}{2}$ トン以下のIORクラスの将来に関するアンケートに対する回答は、オーナー各位の強い関心を反映して、125におよんだ。

その結果については、ここに集計してある通りだが、スモールIORの存続に関しては、意見が完全に分かれ、従来通りの三クラスを残すべきとの意見が58、一つのクラスに絞ることについては61人が賛成した。この場合、 $\frac{1}{2}$ トンにすべきが45、ミニトン8、 $\frac{1}{2}$ トン5となった。

更にIOR以外の新しいクラスについても建造費を安く(58)、わかりやすいルールを(52)に意見が集中したことも一つの方向を示したものと見て注目される。今のIORは逆に高く付いて、ルールが解りにくいということでもあろう。

このクラスの世界選手権については、イベント化して(105)、一ヶ所で統合してやる(91)が強く支持された。

開催地に関しては、ヨーロッパを中心にまとめることに関しては意見がわかれ、“日本と関係ない”もしくは“日本でやってもらいたい”という意見が目立ったといえる。今のヨーロッパ中心の運営が、実質「ヨーロッパ選手権大会」に過ぎない現状をもたらししていることから見れば当然のことだろう。

日本の立場から見れば「太平洋選手権」といった性格の強い、ケンウッド・カップなどを盛り立てて行く、独自のスタンスをニュージーランド、オーストラリア、アメリカなどの太平洋勢と共に検討すべきときに来ているといえる。

ワンオフの注文生産で、サラブレッドのレーシング・マシンとしての極限のレーサーをねらうIORクラスに対して、プロダクション艇を中心にした、クルーザー・レーサーによる多様なレースの可能性を追求するIMSとが併立するというのが今のORCの基本方針であり、昨年のサザン・クロスではIOR60、IMS60といったエントリーの状況となったことから、この方針が急速に支持されて来ていることを示している。

しかし、レーティング・ルールによるハンディキャップ方式とは別に、ワンデザインのプロダクション艇の普及が、クラス・ルールを中心としたスクラッチ・レースの可能性を大きく伸ばして来ていることに注目する必要があると思われる。

オフショア・ワン・デザインのアプローチは、今回のアンケートの結果を見ても、小型レーサーの今後の在り方を示す一つのやり方だということだが、うかがえるけれども、何も小型レーサー(J-24等)に限ったことではないのではなかろうか。

ハイパフォーマンスのIMSによるワンデザインクラスが真剣に検討されても良いのではないかと思われる。

'90 ORC特別規定変更点

安全委員会

1. 特別規定 (以下SR) 1. 2

IOR→削除 (IMSの登場によりIORを含む一般的な言回しに)

2. SR 4. 1

言回しの変更 (内容は同じ)

3. SR 4. 6

6.31.1~8.31 (コックピット排水口、ライフライン、アンカーなどの規定) に関するレーティング区分を全長区分に変更。

4. SR 5. 6

セールナンバーの大きさ・形状に関する規定を全て削除。(IYRR 第25条に同じ規定があるので、重複を避けるため削除)

5. SR 6. 0

Age Date, Series Dateに関する規定の中のレーティング区分を全長区分に変更

6. SR 6. 5 5

'89の誤植を訂正 (水密隔壁の規定)

7. SR 6. 6 1. 1

ライフラインの材質 (ステンレスワイヤー1×19)

に関する規定の追加。

全てのライフラインは、1×19のステンレスワイヤーもしくは同等以上の強度をもった標準適なステンレスワイヤーでなければならない。

ランヤードや端末部品はライフラインワイヤーと同等の強度の物でなければならない。(以下に、1×19ワイヤーの最小直径を示す。端末部品もこれによる。クルーが体重をかけて座るため下段のライフラインも同じとする。)

8. SR 6. 6 2. 1

ライフラインワイヤーの太さ(直径)に関する規定。
LOA 28ft/8.53m以上のヨットは直径5mm以上。

9. SR 6. 6 3. 1

ライフラインワイヤーの太さ(直径)に関する規定。
LOA 28ft/8.53m以下のヨットは直径4mm以上。

10. SR 6. 6 5

ジャックスティの材質・サイズに関する規定

ジャックスティは直径5mm以上、1×19のステンレスワイヤー(耐荷重約2000kg)又は同等の強度の織ったベルトでなければならない。

(織ったベルトは踏んでも転がらないため、ジャックスティに適している。)

11. SR 1 0. 2 2

カテゴリー3. 4. はヘビーウェザーズと

(a) ストームトライスル又は

(b) メインセイルの60%P以下のリーフ装置

但し、芳香属繊維(ケブラーなど)、カーボン繊維、その他の高分子繊維の使用は許されない。

(ストームセールからケブラーなどは締め出す方針である。)

12. SR 1 0. 3 2.

応急操舵装置に関する文章の追加

少なくとも1つはその方法をヨットの上で説明(試験)できなければならない。

13. SR 1 1. 4.

ライフラフトの頃からカテゴリー3削除

14. SR 1 0. 5 1

回帰反射材の頭に“マリングレード”追加

15. SR 1 1. 5 1

“ライフスリング”という言葉(名称)は、商業的規制なしに第三者が使用できることになった事を確認した。

16. SR 1 2.

全て削除(夜間のハイクアウトに関する規定)

追加 ウェイトジャケットの使用は不可

ライフラフトのマーキングに使用する回帰反射材の頭に“マリングレード”追加

プレジャーボート研究会 編著

A 5判・252頁

定価2000円(税込み)

発送費360円

プレジャーボート読本

紺碧の海にロマン

を求め、ボート・ヨット

の愛好家の数は年々激増している。

マリン・レジャーの要ともいえるこのプレジ

ャーボートをあらゆる角度から解説。安全な楽し

(株)成山堂書店

み方のノウハウを満載した注目の書、遂に発刊!!

〒160 東京都新宿区南元町4-51 成山堂ビル内 ☎03-357-5861 FAX 03-357-5867 振替口座東京7-78174

ご注文は 最寄りの書店にご注文ください。近くに書店がない場合は、本社直接の注文にも応じております。

その場合はお名前、住所、部数をご記入の上、定価および発送費を、現金または切手でお送り下さい。

推 選 の 辞

NORC副会長 大儀見薫

日本の海洋レジャーも近年いよいよ盛んになって来た。歴史的なアメリカズ・カップに日本も初挑戦するとか、太平洋縦断レース等の大型企画も華々しく行なわれる一方、手近かなウインド・サーフィン、水と風さえあれば、どこでも見かけられるようになって来た。しかし、波と風は決して手心を加えてくれない。人間

様のご都合等にかまってはくれない。シーマンシップは、人間と船と海との掛け合いの中で、時に大きな犠牲を払って積み上げて来た「生活の智慧」である。

今回プレジャーボート研究会が、海上保安庁の協力を得て、「プレジャーボート読本」という好企画を刊行されたことは、まことに時宜を得たことである。海の現場から、現実即した具体例を豊富に取り込んで編集されたこの「読本」は、安全で、そして楽しいボート遊びを志す者にとって貴重な智慧の宝庫となるだろう。

総トン数20トン以上のレジャーボートの船名変更について

ヨットも総トン数が20トンを超えると、法規制が厳しくなることはご存知と思いますが、なかでも一番大きい問題は、小型船舶操縦士の免許では乗れなくなるという点ではないかと思えます。但し、これは船舶職員法第20条の乗組み基準の特例として、手続を行えば一定の条件の下で「20トン以上で全長17m程度までの外洋レーシングヨット」については一級小型船舶操縦士の免許で乗れるように措置が講じられています。

さて、本題の船名についてですが、20トン以上の船は船舶法の第7条に（国旗掲揚及び名称等標示の強制）として、「日本船舶は法令の定むる所に従い日本の国旗を掲げかつその名称（船名）、船籍港……を標示することを要す」とあり、船名の標示が義務づけられている訳です。しかし「法令の定める所」には「10センチ以上の国字」とあるため、ハイカラな英文字等の表示は認められておらず、

悪評を買っている所でもあります。

さらに第8条には（名称変更の許可制）として、「名称は管海官庁の許可を得るに非ざれば変更することを得ず」とあり、これは本法の運用を定めた船舶法施行細則の第19条に「船舶の名称の変更を許可するは次の場合に限る」とし、

- (1)前所有者の氏名、名称又はこれと同一と認むべき名称を有する船舶を取得したとき。
- (2)船名の名称に番号を冠付し、又は冠付したる番号を変更若しくは削除するとき。
- (3)所有者に於て船舶の名称のために著しき不更を受けるとき。

とあるため、この3例に該当するとき以外は一切船名の変更は出来ませんこととなっています。

これは、先の第7条に基づき、船首両舷及び船尾に船名を明記させ、これを船の外見による識別の手段としているため、船名を自由に変更す

ることは、詐偽又は誤解等の弊害を生じたり、犯罪を隠蔽したりし、財産の保金上からか、治安上からか好ましいことではないため、人名の取扱と同様このような厳しい取扱いとなっている訳です。

しかし、レジャーボートは趣味の物であり、たとえ中古で購入しても、自分好みの名前を付けて可愛がりたいのが人情というもので、前のオーナーの彼女の名前をそのまま引継がなければならないと言うのは余りにも酷と言うものであります。

この辺の事情を無粋な役所もやっと理解し、「遊興用の個人等の所有による船舶（所謂プレジャーボート）の船名変更の許可について」という文書が最近出され、従来何の彼の言われて認められなかった船名変更が、レジャーボートに限り、所有者の変更時等は先の許可要件の(3)に該当するとして許可されることとなりました。

なお詳細につきましては近くの運輸局船舶部又は海運支局にお問い合わせ下さい。

小網代 チルデII 今北文夫

1990年度関東支部レース日程表(案) (締切5/15以降のみ)

関東支部帆走委員会

レース名	第35回神子元島レース	第28回小網代カップレース
コース	小網代 (95湊) ↓ 神子元島 (反) ↓ 小 網 代	小網代 (65湊) ↓ 大 島 (時) ↓ 小 網 代
スタート	11/3 (土) 11:00	11/23 (金) 11:00
申込締切	10/26 (金)	11/9 (金)
出艇申告 艇長会議	11/2 (金) 18:30 NORC本部	11/22 (金) 18:30 NORC本部
参加資格	IOR/JORI~VI ORC-3 NORC-B クルーザー-R IMS	IOR/JORI~VI ORC-3 NORC-B クルーザー-R IMS
担 当	油 壺	小 網 代

※ 5月20日(日) ミノルタカップ (江ノ島フリート)

※ 7月26日~8月7日 日ソ親善ヨットレース

※ 8月26日(日) 石原裕次郎メモリアルヨットレース

'90年度横浜フリート スケジュール

- 6月3日(日) 横浜レガッタ
(1回目)
- 6月23日(土) 勝山ランデブー
(びわ狩・レース)
- 8月4日(土) 大島ランデブー
(第17回)
- 9月9日(日) 横浜レガッタ
(2回目)
- 10月7日(日) 横浜レガッタ
(3回目)
- 11月4日(日) 横浜レガッタ
(4回目)
- 11月25日(日) 横浜レガッタ
(5回目・表彰式)

連絡場所:横浜フリート 橋本
TEL 045-253-2917 FAX 045-261-2918
申込締切:イベント前2週間

■新登録艇のご紹介

2462 EVE 1 YA-25II 横浜 7.49m×5.87×2.72×1.460

◎オーナー代表/足立利男 ◎共同オーナー/長嶋祐二 ◎艇名の由来/1979年12月24日のクリスマス・イブの日に進水式を行うことになったから、あえて考え込むことなく、“イブ 1”と艇名を決めました。

◎これからの抱負/私も含めてクルーの誰かが無線免許を取得したら2世目の艇乗り替えを考えようと思っています。クルージング及びローカルレースに出たいと思っています。 ◎クルーの顔ぶれ/メカ担当・長嶋祐二、フォアデッキ・鎌田広之、ナビ・坂口悦朗、森崎君子、長崎由理子、加藤聡 ◎その他NORCへの要望/会友艇として2回登録しましたが更新がめんどうになったので特別会員になることにしまし

た。特別なし。

4171 神興 BENE 下田港 12.96m×11.27×4.22×1.8 ◎オーナー氏名/磯辺良男 ◎艇名の由来/会社名を決める時“しんこう”を漢字で書くのに“神興”とするか“神興”とするか迷って現在の神興にしたという昔話があって、ヨットは神興と書いて“みこし”と読むことにした。 ◎これからの抱負/これまでクルージング中心だったが、今後各種レースにも出場したい。何しろ初心者集団である為、練習を重ねる事と自慢のクルーワークに更に磨きをかけ、レースに出たら少しでも良い成績が出せる様頑張りたい。

◎クルーの顔ぶれ/社員全員が気軽にヨットに乗れる様にしている為、社員全員がクルーです。又、社外の方の乗艇も歓迎しています。

◎その他NORCへの要望/当艇の

ホームポートは下田なので、下田方面でのレースや催しの企画をお願いしたい。

4302 C-SKY YOK-33 佐島・小田和湾 10.5m×7.80×3.30×1.90 ◎オーナー氏名/久保井雅也 ◎艇名の由来/海(シー)を空(スカイ)のもとで楽しもうとして命名しました。 ◎これからの抱負/若いクルーが多いので、楽しむことと、レースに参加することに努力します。また、新規クルー希望者も多いので、安全を重視し、基礎訓練にも力を入れたいと思います。 ◎クルーの顔ぶれ/大津山彰(日本大学 体育会ヨット部出身) 鹿田昌宏(ヨット協会中級、国体参加) 大宰寛(東海大学海洋学部卒業) ◎その他NORCへの要望/おつき合い面の御指導もよろしく、お願いします。

■1990初島卯月レース

成績表

レース委員長 加藤幸男 スタート 4月7日11時0分0秒

クラス	セルNo	艇名	タイプ	R(ft) R(m)	オーナー	フィニッシュ	着順	所要時間 時 分 秒	T.C.F. TA(Ⅲ)	修正時間 秒	クラス 順位	総合 順位
JOR/JORクラス												
I	3070	BE ONE	FRE 52	40.93	合田 耕平	RET	—	—	—	—	—	—
I	3224	LUCKY LADY	TAK 46	35.52	稲葉 文則	17'42'56"	9	6'42'56"	.8560	5'44'54"	1	20
II	355	SLEEPER	M/N 42	32.64	武部 喜一	17'13'15"	3	6'13'15"	.8313	5'10'16"	5	5
II	1465	MAUPITI	FRE 38	30.87	岩田 慎夫	18'10'44"	18	7'10'44"	.8156	5'51'18"	8	23
II	3355	YUKIKAZE V	YOK 40	30.12	斎藤 邦	17'49'34"	11	5'49'34"	.8088	5'31'15"	7	15
II	3544	BLUE NOTE	ITO 41	31.06	五十井 進	17'22'42"	6	6'22'42"	.8173	5'12'46"	6	7
II	3606	BOY	FAR 40	30.68	山田 隆博	17'13'58"	4	6'13'58"	.8139	5'04'22"	2	2
II	3660	SEIKAIHA	X-1	31.04	清田 博	17'13'09"	2	6'13'09"	.8171	5'04'54"	3	3
II	3800	KARASU	TAK 40	30.94	剣森 保雄	17'18'52"	5	6'18'52"	.8162	5'09'13"	4	4
II	4014	ESMERALDA	J-33	31.31	鈴木 真	18'11'26"	19	7'11'26"	.8196	5'53'36"	9	24
II	4033	ARECAN BAY	FAR 40	30.55	後藤 裕	17'11'02"	1	6'11'02"	.8127	5'01'32"	1	1
III	3295	SOUJI-Y	YAM 38R	28.29	佐藤 三次	18'07'38"	17	7'07'38"	.7919	5'38'38"	1	17
III	3896	SHIKON	X-99	29.77	土橋 照泰	18'28'30"	22	7'28'30"	.8056	6'01'18"	2	25
IV	2182	KELONJA	YOK 33	24.12	大谷 正彦	18'35'51"	24	7'35'51"	.7511	5'42'23"	7	19
IV	3001	HALF TIME	YOK 35	25.90	田沼 英明	RET	—	—	—	—	—	—
IV	3306	RIPPLE III	YOK 30R	23.09	碓 俊弘	18'00'03"	14	7'00'03"	.7405	5'11'02"	1	6
IV	3530	SUMMER KNOWS	TAK 34	24.63	高村 宏	18'02'34"	15	7'02'34"	.7563	5'19'35"	4	10
IV	3561	CAETLA	X 3/4	24.73	沼田 尚文	18'02'55"	16	7'02'55"	.7573	5'20'16"	5	11
IV	3705	DIAMOND	YOK 30R	23.30	小川 弘	18'14'22"	20	7'14'22"	.7427	5'22'36"	6	12
IV	3809	SHARAKU	YAM 34	25.23	熱田 士行	17'52'03"	12	6'52'03"	.7623	5'14'06"	3	9
IV	3839	KAIENTAI	HOL 33	24.58	永田 敬三	18'41'20"	26	7'41'20"	.7558	5'48'40"	8	21
IV	4147	CHAR CHAN	TAK 3/4	24.54	木原 和喜	17'54'42"	13	6'54'42"	.7554	5'13'15"	2	8
V	3002	SYLPHIDES	YOK 32S	22.90	蒲谷 和行	DNC	—	—	—	—	—	—
V	3005	SAMOA V	U-31	21.86	大石 巖	18'34'25"	23	7'34'25"	.7275	5'30'35"	2	14
V	3236	NEFUNOREO	YOK 31	22.24	馬谷 原宜彦	19'27'34"	32	8'27'34"	.7316	6'11'20"	6	26
V	3333	TABATHA III	YOK 31	22.37	久保田 茂	DNC	—	—	—	—	—	—
V	3387	BASIC	YOK 28	21.58	小坂橋 博行	18'39'46"	25	7'39'46"	.7245	5'33'06"	3	16
V	3485	ISIS	YAM 30R	22.35	北中 壮彦	18'46'41"	28	7'46'41"	.7328	5'41'59"	4	18
V	3510	TRACER	TAK 30F	22.08	智久	18'58'18"	29	7'58'18"	.7299	5'49'06"	5	22
V	3714	FUJINMARU	YOK 31N	22.76	高橋 真明	18'27'25"	21	7'27'25"	.7371	5'29'47"	1	13
CRレディンクラス												
	324	AKIZUKI	DHL 31	6.40m	和久井 喜治郎	19'33'43"	33	8'33'43"	.657	-713	3	
	1044	TELEMATIQUE	JAN 34	8.20m	高木 昌彦	DNC	—	—	—	—	—	—
	1115	STAYER	X- 372	8.75m	吉田 修	18'41'54"	27	7'41'54"	.554	1122	5	
	2690	KUROSHIO III	NAK 33	7.90m	藤村 真示	19'36'29"	34	8'36'29"	.586	2861	10	
	2967	HOLIDAY	YOK 29	7.10m	馬目 徳男	19'46'21"	35	8'46'21"	.621	1773	7	
	3426	DANCE OF MAGIC	SWG 28	6.55m	原田 八郎	19'23'23"	31	8'23'23"	.649	-949	2	
	3536	ECHUDO	ELO 10	9.75m	向井 豊誠	17'48'48"	10	6'48'48"	.522	-528	4	
	3768	FRENCH KISS	X 404	9.70m	山科	DNC	—	—	—	—	—	—
	4093	OBSESSION	ARC 30	7.20m	野口 壮一	19'49'17"	36	8'49'17"	.616	2189	8	
	4137	BJ 7	FC E	9.90m	猪狩 光清	17'22'43"	7	6'22'43"	.517	-1853	1	
	4156	ROMAN	GS 402	8.80m	大武 幸雄	19'01'10"	30	8'01'10"	.552	2374	9	
	4175	VOYAGER	EDV 30	6.80m	大庭 康	19'58'17"	37	8'58'17"	.636	1769	6	
オープン参加												
	4260	FOLLOW ME	F 27	—	S.C. カリー	17'34'40"	8	6'34'46"	—	—	—	—



レース委員長 加藤幸男

4月7日(土)、雲りの中、午前11時、全艇リコールもなく一斉にスタート。

スタート直後、4~5%の片上りの風も、初島の手前約5マイルの地点にトップ艇がさしかかった頃、真上りの風にシフトしたようだ。

その真上りの中、上位艇はタックを繰り返しているのに対し、上位に上れなかった艇はポートのまま艇を落し、ワンタックで初島に向けている。

又、初島からの帰りは、城ヶ島を

めがけフィニッシュ手前でジャイブを繰り返した艇は功を奏し、江の島を目指した艇は上位に少ないようだ。

真上りになってからは、かなりの強風になったようで、リタイアの第一報は、メインセイルの破損、第二報は、ランニングバックステーを引いているところリギンが切れて、デスマストしている。

その強風のため、初島を回ってからのランニングは、各艇かなり楽しめたようだ。コミッティとしても、全艇のフィニッシュが早く、嬉しい事であった。

尚、毎年フィニッシュ後、レース報告書と航跡図を出さない艇があり、後日連絡してくるが、必ずフィニッシュ後、速やかにレース本部、若しくはコミッティ艇に提出して頂きたい。更に、毎年たいていフィニッシュラインが小網代港の手前になるので、事前に大網の位置など障害物を確認して頂きたい。

フィニッシュ後のトラブルがいつもあり、レスキューを要請するにも時間が遅いため、連絡に苦勞している。重ねて誌面を借りて要望致します。

I.O.R.優勝

ARECAN BAY

I.O.R.2位

B O Y

I.O.R.3位

青海波

CR優勝

BJ-7



写真提供：諸磯フリート、関東支部広報委員会、撮影協力：熱海・はなぶさ

第4回 関西ミニトン 選手権



全日本の余勢をかって優勝したレーサークラス“CREEK V”、続いて2位の“さくら”

第4回ミニトン関西選手権は4月14、15、22日の日程で、ビワコのレークウエストヨットクラブを基地に行われた。参加艇数22、クラスはA（IOR）、B（クルーザー）、C（Y23）の3クラス。今大会の特徴はクラスCを新設したことである。このクラス新設には、昨年の中日本で種々な問題が提起されたのを受けて、クルーザーレーティング5.3mを上限とすること、又は5.0mのなかで艇の改造をほどこすこと、のいずれかにも無理があり、十分な議論をつくせなかったため、やむなく別クラスとして出発することになったもの。今後ミニトンのプロダクション艇としてはY21が生産されていない現状から、このクラスの拡大が予想されるところであるが、急なことであり、今回は3艇の出場にとどまった。

レーサークラスでは“TWIN CAM”が関東にあり、出場しなかった以外はミニトンレーサーがほぼ出そろい、事実上の全日本の様相を呈することになった。なかでも全日本二連勝の“CREEK V”、

締切りギリギリに機装を終え駆け込み出場となったマリンオフィスフジタの新艇“SAKUKA V”、第3回大会優勝艇の“MIX MAX”の走りか戦前の話題となった。一方Bクラスでは全日本優勝艇の“翡翠”の不出場が惜しまれたが、前回優勝の“IYASAKA”、B SYCのレーサーキラーの“MARIE”これまた駆け込みの出場となった“IMP”、ビワ湖の長老、松本さんの“MOLA MOLA”、津の松葉さんの“I am”など戦前の話題はつきなかった。またCクラスの3艇がレーサーにどこまで競り合うかが注目されるところであった。

第1レース、オリンピックコース。風3m、ジャストスタート。わずかなブローの拾い合いとなるが、第一上を先ずは“MIX MAX”がトップ回航、続いて2艇身遅れて“CREEK V”さらに5艇身間隔で“SAKURA V”“DOOBEI”。ここで5番手に“SAYU”がレーサーを食っての回航となる。Bクラス2番手は“IMP”。その後サイドのからみて“SAKU

RA V”“CREEK V”“MIX MAX”と入れ替り、第一下はこの順位に“DOOBEI”がインから“MIX MAX”を抑えて三位に浮上、ここから今シリーズ最大の山場がやってくる。第一下回航後そのまま東へ延ばしていく“SAKURA V”は、どうしたことが、タックして西にコースをとった“CREEKV”をおさえず、さらに“DOOBEI”が“MIX MAX”を抑えたまま東へ東へとレグを延ばす。やや遅れていた“POISSON ROUGE”か西のコースで“CREEK V”を追う展開なる。艇団は東西に二分されたのだが結局、第二上は大きくひきはなして“CREEK V”が、続いて“POISSON ROUGE”、かなり遅れて“SAKURA V”となり以後このままの順位でフィニッシュ。

ワンタックで大きく命運が分けるレースとなったが、“SAYU”も東へ行ったため順位を下し、結局クラスBでは“IMP”“MOLA MOLA”“MARIE”の順となる。Cクラスでは、“MICHIKO”が負傷のためリタイア、“ハーモニー”“Star Dust”の順となる。

第2レース、オリンピックコース。横一文字のジャストスタート。第1レースのうつぶんをはらすごとく、先ず第一上にたどりついたのは“SAKURA V”、二番手“CREEK V”“MIX MAX”“ESPERANZA”。

Bクラスでは“MARIE”“SAYU”“IMP”“MOLA MOLA”。注目のCクラスは“ハー



クルーザークラスのスピン・ラン。右から2番目が1位の“IMP”、続いて2位の“MARIE”

モニー”が八番手で“MARIE”の3艇身前を回航, “Star Dust”は“MOLA MOLA”の次を16番手で回航する。

第二上ではスタート悪く遅れていた“DOOBEI”が4番手に順位を上げ, “AKVAVIT” “ESPERANZA” “FUZZY”と4位以下が入れ替り, クルーザークラスでも1位“MARIE”以外は“I am” “IMP” “SAYU”と順位が替る。このあたりから水面は例によって「ビワ湖」となり, 最終レグはスピンランとなるが, 東へ上っていく“CREEK V”それを意識して東へせり上っていく“SAKURA V”。それに対して“MIX MAX”以下は一直線にプロパー。風はプロパーを通り抜け, やがて前に回った機を逸せずにスピンダウンして一気にフィニッシュラインを切ったのは“MIX MAX”だった。ダントツで下を回ったはずの“SAKURA V”それに続く“CREEK V”はかろうじて2, 3位に入ったものの, 4位“AKVAVIT” 5位“DOOBEI”とは微差のところまで追いつめられ苦しいフィニッシュだった。“MARIE”は1位, 2位“IMP”, 3位“I am”, その後“ハーモニー”が続いた。

第3レース, オリニックコース。この日は早朝から濃霧におおわれ, レースの開催が危まれる場面もあったが, 予定の9時半頃から次第に視界が開け, たいして遅れることもなく, 4mの風のなか, 下有利のスタートとなった。リミット付近で一団となった艇団が押し出される形で今シリーズ初のゼネリコとなる。各艇思い思いのタックを繰り返しながらブローのひろい合いとなり, レーサーキラーの“MARIE”は“CREEK V”に続き2番手で上を回航。第二下に向うレグの1/2あたりで“CREEK V”は第二上にスターボードで向かう向う“MIX

MAX”と航路権のケースを起しスピンダウンの後, 720度の回転する場面もあったが, 大勢に影響なく, 2位“SAKURA V”と3分20秒の差で1位でフィニッシュ。3位は“JONATHAN みう”, 4位“MIX MAX”となった。一方Bクラスでは着順4位で“MARIE”が堂々の1位。2位“IMP”, 3位“Lady Cat”, 4位“MOLA MOLA”, 5位“I am”となったが, このレースはビワ湖にはめずらしくスタートで決まったレースだった。この時点でA, B両クラスとも優勝の行方は次のレースに持越されることになった。

第4レース, ショートディスタンスコース。北の風3m, ウエザーマークなし。西と東に分かれた艇団にわずかにブローをなめるように湖面をうかがやがてカームにつかまる。

南西の吹出しをスピンでいち早くつかんでみるみる疾走し始めたのは“MIX MAX” “POISSON ROUGE” “ハーモニー”。その後怒濤のように走りだす艇団を横目に東より一番の“CREEK V”, 二番手の“SAKURA V”はブカブカとカームのなか。“MIX MAX” “POISSON ROUGE” “ハーモニー”の

順で大橋をくぐり抜けた頃やっと両艇はスピンに風を受けての再スタートとなる。全艇が大橋を通過したあたりから風は7, 8mとなり絶好のリーチングコンディション, ブローチングする艇も出る有様。先行集団は大橋通過とほぼ同じ順位でワン沖の第一マークを回航, その後はポートの片のぼりで大橋めざして一直線が, 少なくとも風が北に振れ, レークウエスト沖のスタート地点をこえたあたりから再びスピンアップとなり, 唐崎沖の第二マーク回航の後, 一位“MIX MAX” 二位“POISSON ROUGE”, 長いレグを追上げた“SAKURA V”, “CREEK V”が3, 4位と続く上りのコース。

結局追上げた“SAKURA V”, “CREEK V”が2, 3位と“POISSON ROUGE”をしのいでフィニッシュ。一方Bクラスは“IMP”が一位, “MOLA MOLA”が二位, “MARIE”が秒差で三位となる。いま一つ風に難はあったものの天候にめぐまれたシリーズであった。関東から前夜祭にかけつけていただいた菅原ミントン協会会長の言葉にあった通り, 今後のミントン界を背負って立つにふさわしい大会であった。

第4回ミントン関西選手権 総合成績

レース委員長 磯田康夫

<IORクラス A>

艇名	艇種	第1レース 順位 得点	第2レース 順位 得点	第3レース 順位 得点	第4レース 順位 得点	総得点	順位
CREEK V	TAK-1/8	1 9.25	3 7.00	1 9.25	3 10.500	36.000	1
さくら	TAK-1/8	3 7.00	2 8.00	2 8.00	2 12.000	35.000	2
MIX MAX	TAK-1/8	6 4.00	1 9.25	4 6.00	1 13.875	33.125	3
POISSON ROUGE	TAK-1/8	2 8.00	6 4.00	7 3.00	4 9.000	24.000	4
DOOBEI	TAK-1/8	4 6.00	5 5.00	5 5.00	5 7.500	23.500	5
AKVAVIT	TAK-1/8	7 3.00	4 6.00	8 2.00	6 6.000	17.000	6
ESPERANZA	YOK-22	5 5.00	7 3.00	6 4.00	7 4.500	16.500	7
JONATHAN みう	KAN-23	9 1.00	9 1.00	3 7.00	8 3.000	12.000	8
FUZZY	KAN-23	8 2.00	8 2.00	9 1.00	9 1.500	6.500	9

<CRクラス B>

艇名	艇種	第1レース 順位 得点	第2レース 順位 得点	第3レース 順位 得点	第4レース 順位 得点	総得点	順位
IMP	YAN-21S	1 10.25	2 9.00	2 9.00	1 15.375	43.625	1
MARIE	YAN-21C	3 8.00	1 10.25	1 10.25	3 12.000	40.500	2
Mola Mola	YAN-21S	2 9.00	5 6.00	4 7.00	2 13.500	35.500	3
I am	YAN-21C	5 6.00	3 8.00	5 6.00	4 10.500	30.500	4
Lady Cat	YAN-21S	8 3.00	6 5.00	3 8.00	5 9.000	25.000	5
IYASAKA	OCE-23	4 7.00	7 4.00	6 5.00	7 6.000	22.000	6
SAYU	YAN-21C	6 5.00	4 7.00	10 1.00	10 1.500	14.500	7
HI-WIND	YAN-21S	9 2.00	DNF	7 4.00	8 4.500	11.500	8
TAKO Spirits	YAN-21C	7 4.00	DNF	8 3.00	9 3.000	11.000	9
HERO	YAN-21S	DNC	0.00	DNF	9 2.00	7.500	10

<CRクラス C>

ハーモニー	YAN-23	1	3.25	1	3.25	1	3.25	1	3.375	13.125	1
Star Dust	YAN-23	2	2.00	2	2.00	3	1.00	2	3.000	8.000	2
NICHIKO	YAN-23	RET	1.00	DNC	0.00	2	2.00	3	1.500	4.500	3

速報

コラムチャイナシーシリーズ1990 “コルバッチIII”総合9位に!

本年度コラムチャイナシーシリーズ1990—CCSR—(ロイヤルホンコンヨットクラブ、マニラヨットクラブ共催)は4月7日開幕しましたが、関東からただ一艇参加した“コルバッチIII”(オーナー加藤忠男・J4111/BAL43)は第1、第2レース終了した4月9日現在CHSクラス(RORCのチャンネルハンディキャップシステム)で通算首位を快走しています。

今年のCCSRには7カ国60艇がエントリー(IOR9艇CHS51艇)しましたが、連日の“コルバッチIII”の活躍に各国のヨットマン達から驚きの声があがっています。

特に第1レースの『香港100マイルレース』ではファーストホーム、修正1位、クラス1位の三冠を達成しました。同レースでは“コルバッチIII”はスタートをトップで出てその後終始上位をキープ、10時間後の夜間には15分前にスタートしたIORのワントン勢に追いつき全フリート5番目のポジションを確保、超微風のスピランでは先を行くIORの50フィート艇団に肉迫、各国の歴戦のIOR艇を真青にさせる走りを見せました。CHSクラスで“コル

バッチIII”はレーティング10番目でしたがこの第1レースではCHSの50フィートクラスをも問題にせず23時間55分後の4月8日午前9時10分過ぎに濃霧の香港島沖にフィニッシュしました。全フリートの6位フィニッシュで、残りのIOR3艇を3時間余り引き離し、またCHS2着艇を2時間30分離しての堂々たるCHSクラスファーストホームの圧勝となりました。

4月8日の第2レース香港インショア30マイルレースは100マイルレースとは一転した強風のレースとなりましたが、“コルバッチIII”は強風をものともせず快足ぶりを発揮、着順3位修正2位の好成績をおさめ通算でダントツの首位をキープしています。第2レースのトップはあのスーパーボートの“スウィートキャロライン”(香港艇・デュボワ44)でした。



第1レースの表彰をうける加藤オーナー(中央)

この“コルバッチIII”の驚異的な走りと成績はCSR史上初の出来事で「日本艇強し」の声が香港ではしきりて地元マスコミも「シリーズ優勝候補艇No1」を報じています。

関東支部広報委員会

CCSR'90は4月12日香港スタートのマニラフィニッシュの650マイル、マニラでの30マイル2本を行い、4月22日閉幕しました。

“コルバッチIII”は第3レース25位が響き9位に終わりました。



第2レース帆走中の“コルバッチIII”



左から渡辺、島本、八木、堀内、浅野、田熊



香港・ビクトリアピークをバックに。ラット前左から田熊(“WILL”, KYC)、池本(ポートナウ)、ラット後ろ左から堀内(“コルバッチ”), 島本(SYC)、八木(バルティック)、浅野(ABYC, “コルバッチ”), 桜井(ABYC, SYC)、渡辺(SYC)。注: ABYC=油壺ベイヨットクラブ, SYC=須磨ヨットクラブ, KYC=関西ヨットクラブ

CURUM CHINA SEA SERIES 1990

C. H. S. Division Series Results

Yacht Name	Class	Race 1	Race 2	Race 3	Race 4	Race 5	PTS	POS
Conquistador	3	78	44	135	36	44	337	1
Hong Kong Xpress	LDB	72	42	129	43	47	333	2
Island Fling	4	88	28	141	32	42	331	3
X-Travagance	LDB	68	31	120	41	45	305	4
Pak Ling	3	80	25	126	33	39	303	5
R B	2	92	30	102	35	43	302	6
Roxanne	LDB	74	35	114	29	38	290	7
Close Shave	LDB	86	41	99	26	32	284	8
Corvatsch III	1	94	46	69	39	26	274	9
Sweet Caroline	1	76	47	57	45	46	271	10
Lethal Weapon	LDB	64	32	87	40	37	260	11
Slalom Glade	4	84	26	93	37	17	257	12
Bugis	2	54	37	78	46	41	256	13
Intrigue	LDB	90	43	54	38	23	248	14
L'Aventura	2	60	40	66	47	31	244	15
Merkano	4	12	20	132	21	36	221	16
Windseeker	4	12	24	123	31	29	219	17
Pugante	1	46	39	60	34	34	213	18
Sky Song	3	70	23	81	19	17	210	19
Ambil Angin	4	12	16	117	28	33	206	20
Trio	LDB	50	29	75	27	17	198	21
Temujin	2	58	33	90	1	1	183	22 =
China Daze	1	56	45	24	23	35	183	22 =
Vida	1	42	38	30	42	30	182	24
East wind	2	66	1	111	1	1	180	25
Delphian	2	12	21	96	18	27	174	26
Delirium Tremens	LDB	62	1	108	1	1	173	27
Ouchi	LDB	48	34	42	20	25	169	28
Tropic Bird	3	12	36	72	22	22	164	29
Irresistible	4	2	1	105	25	28	161	30
Gale Force	2	44	27	84	1	1	157	31 =
Kira	1	40	22	48	30	17	157	31 =
Gypsy	4	12	1	138	1	1	153	33
Gokko Jr	1	2	1	63	44	40	150	34
Cariad VIII	4	82	16	3	1	1	103	35
Kalayaan	4	2	1	33	24	24	84	36
Red Baron	1	52	1	27	1	1	82	37
Tipsy Too	3	12	1	45	1	1	60	38
Quicksilver	2	2	1	51	1	1	56	39
Musketelle	1	12	1	39	1	1	54	40
Albatross	4	2	1	36	1	1	41	41
Tasmica	2	12	1	21	1	1	36	42
Defiance III	1	12	1	18	1	1	33	43 =
Wave Dancer	3	12	16	3	1	1	33	43 =
Irmgard	3	12	1	15	1	1	30	45
Hoopoe III	4	12	1	9	1	1	24	46
Mandalay	1	2	1	12	1	1	17	47

I. O. R. Division Series Results

Yacht Name	Class	Race 1	Race 2	Race 3	Race 4	Race 5	PTS	POS
Steadfast	2	18	3	24	8	9	62	1
Corum	1	16	7	27	4	4	58	2
Sunstreaker	2	8	4	21	9	8	50	3
Foo 2	1	12	8	9	7	6	42	4
Cyclone	1	14	9	6	5	7	41	5
Fujitsu Dealers	2	10	1	18	3	2	34	6
Bimblegumbie	1	6	6	15	2	3	32	7
Jelik	2	4	2	12	6	6	30	8
Brindabelia	1	2	5	3	1	1	12	9

NORC保険デスクより

事故報告のお願い

いよいよヨットシーズンです。会員の皆様の活動もこれからが本番といったところでしょうか。

何よりも安全なクルージングを願って止みませんが、万一事故が起きたときには、その内容をすぐにご連絡ください。

もちろん、まず、事故艇、被害者のための応急措置をとったあとで結構です。

事故受付は電話で行っていますが、できればFAXをご利用いただき、次の事故報告書の内容についてお知らせいただきたいと思います。

事故の概要につきましては、事故の形態によって内容が異なりますが、できるだけ詳細にお知らせください。

事故をいくつかに分けて、ご報告いただくポイントを参考までにご紹介します。

A. クルージング中の事故

1. 使用していたセール
2. メイン、ジブのトリム
3. スターの張り具合とバランス

4. 波向と艇の進路、艇速

5. 乗員名と役割

B. 係留中の事故

1. 係留方法
2. アンカーの種類と重量
3. ロープ径と長さ、チェーンの長さ

事故受付後、査定員が事故調査にあたりますので、事故当日の同乗者に、必ず立会いをお願いします。

その際、事故状況と原因、損傷状況、修理方法及び期間等について、修理業者と共に確認していただくことになりますので、ご了承下さい。

なお、被害艇と示談する場合には予め示談内容について、保険会社の承認が必要ですので、ご相談下さい。

事故処理には是非とも会員の皆様のご協力が必要ですので、一層のご理解をお願い致します。

ご不明な点はお問合せ下さい。

<事故連絡先>

NORC保険デスク

フリーダイヤル：0120-024410

FAX：03-291-2289 以上

事故報告書

報告者名

艇名、セールNo.	船 質	船 籍	全長	船検 番号	主機種類・主力
船の所有者	住所	連絡先（電話）			
	氏名				
艇 長	住所	連絡先（電話）		海技免状種類	
	氏名			海技免状番号	
発航港・到達港 保管場所	発航港	到達港	保管場所		
事故発生の 年月日及び場所	日 時 年 月 日 時	場所			
事故当時の天候	天気	風速	風向	波高	潮流
事故の概要 略 図					
自艇の被害状況 及び 事故後の処理	損傷状態 修繕業者 修繕費見込額	救助業者 救助費用見込額			
乗組員の 傷害及び治療	氏名 傷害状態	病院名 入院見込日数 通院見込日数			
第三者賠償	相手方住所・氏名 被害物・被害程度 修繕業者				

団体窓口 NORC保険デスク

東京都千代田区神田錦町1-9天理ビル

東南興産株式会社東京営業所内

担当：有光 庄子、長尾 光

TEL：0120-024410 FAX：03-291-2289

NORC認定代理店一覧 1990.4.1 現在

名称・会員名	〒 住 所	TEL・FAX
柳石川保険 事務所 石川 昇	107 東京都港区 赤坂 3-1-2 A I U 赤坂ビル	T:03-586-6297 F:03-584-6203
オフィス ・マリン 二階堂 進	210 横浜市鶴見区 市場大和町 4-1 仙台東ビル 202	T:045-503-5377 F:045-503-1406
根 岸 保険事務所 根岸 恒樹	198 青森市新町 848 新町台マンション107	T:0428-31-58
柳 ビーアイエー 秋岡 康夫	107 東京都港区 赤坂 3-1-2 A I U 赤坂ビル	T:03-586-4411 F:03-583-2696
柳T・A 代理店 酒井 直樹	107 東京都港区 赤坂 3-1-2 A I U 赤坂ビル	T:03-583-0783 F:03-584-6296
柳タケウチ エージェンシー 竹内 誠	230 横浜市鶴見区 下末吉1-8-14 岡安ビル 202	T:045-584-6650 F:045-584-6656
笹岡損害 保険サービス 笹岡 耕平	538 大阪市鶴見区 浜2-4-47	T:06-911-2017 F:06-911-1649
保険の カトー 加藤 幸雄	422 静岡県石田 3-15-5	T:0542-81-3928 F:0542-83-1316
T・I・C 田中 高英	106 東京都港区 南青山 3-8-14 パーク青山	T:03-405-8269
KATO 加藤 繁雄	475 半田市亀崎 6-80-14	T:0569-28-2340
サトー インフォアソフィス 佐藤 克則	733 広島市西区 天満町3-19-203	T:082-293-0860 F:082-231-5231
鈴木総合 保険事務所 鈴木 幹夫	475 半田市吉田町 4-108-1	T:0569-27-50 F:0569-27-6581
柳ファミリー 旅行社 寺田 順	516-01三重県 度会郡南勢町 船越3113	T:05996-6-0933 F:05996-6-0341
知 久 保険事務所 知久 良広	730 広島市中区 富士見町 2-9-103	T:082-244-5380 F:082-244-5381

今月の表紙：4月22日進水したアメリカズカップ挑戦艇“NIPPON-1”の雄姿。
(写真提供/ニッポンチャレンジアメリカ杯1991委員会、撮影/添畑 薫)

OFFSHORE 第181号 平成2年5月15日発行
毎月1回15日発行
昭和52年7月21日 第三種郵便物認可
1部定価300円（郵送料46円）

発行 社団法人 日本外洋航海協会
東京都港区虎ノ門1-15-16(船舶振興ビル4階)
電話・東京03(504)1911~3 〒105
郵便振替番号2-21787
印刷 明宏印刷株式会社

オースセーリングの予感。

ヨット・モーターボート総合保険

東京海上火災保険株式会社
住友海上火災保険株式会社

お問合せ先：会員代理店またはNORC保険デスク（フリーダイヤル0120-024-410）

冒険小説のような一日。



セイルが風をはらむ、艇が滑り出す。物語の始まりだ。
波をこえるごとに、艇がヒールを繰り返すごとに
スリリングな事件に遭遇したかのように胸が高鳴る。
見上げると、抜けるような青空。
風のかたちが見えるような雲のながれ。
これは、まだ見ない海の魅力という、
黄金の島を求める航海だ。
YAMAHA-34Sとの一日は、
いつもエキサイティングな期待に包まれている。



N-E-W YAMAHA-34s

●全長10.30m ●水線長8.50m ●全幅3.50m ●吃水1.97m ●完成重量4,700kg ●バラスト重量1,800kg ●全セイル面積53.82㎡ ●バース数7
●呼称最大馬力18ps ●定員12名(平水) ●航行区域 遠洋
※写真はオプションを含みます
■平水限定沿海標準価格¥13,413,200
※2GM・20B付、法定安全備品等が含まれています。
オプション・船舶検査費用・運賃・消費税は含まれていません。

FOR GOOD MARINE LIFE! 安全がマリンスポーツの基本です。

■天気予報を確認して、無理のないセーリングを。■法規やマナーを守りましょう。■立入禁止水域や船舶航行の頻繁な水域は避けましょう。■点検・整備を忘れずに。■乗船前に、免許と法定備品の確認を。■漁業者に迷惑をかけないようにしましょう。■カタログご希望の方は、船名・雑誌名を明記のうえ、宣伝課まで。●ヤマハ発動機株式会社 〒438 静岡県磐田市新貝2500

ヤマハ製品についてのお問い合わせは、下記までどうぞ。

北海道ヤマハ株式会社…… ☎011-612-1060	ヤマハ関西株式会社…… ☎06-535-1671
ヤマハ東北株式会社…… ☎022-235-1031	ヤマハ中国株式会社…… ☎082-285-4911
ヤマハ東京株式会社…… ☎03-444-9971	ヤマハ四国株式会社…… ☎0878-67-3800
ヤマハ中部株式会社…… ☎052-913-2121	ヤマハ九州株式会社…… ☎092-472-5261